

中西康郎遺作展 2010年10月22～27日

於・上本町ギャラリー

大阪市天王寺区上本町6-7-24

フランス・スペイン・シンガポール旅日記1980

————— 中西 康郎

テキスト入力 高峰靖子

6月26日(木)

全く、あわただしい一日。何から何まで、手前一人でやらんといかんとするのは、ほんまにシンドイ。奥さま新聞の原稿書く。BANKは3時までのので中断して、BANKへ、アキコところへ金おくり、関銀の調整して、長崎屋でクツなど買い、家に帰って、原稿を清書して、郵便局へ持って行く。また長崎屋へ引きかえし、持参するもの買い出しをする。夕方母親来る。いろいろと犬の件やらをたのむ。夜おそくまで、旅の準備をする。80人展の作品をと思ったが、もはや体力の限界。ここのところ、数日スイミン不足。あきらめた。

6月27日(金)

サラリーマンが、朝寝して、メシも食わずにとび出したようなあわただしさである。

7時に起きる。やり残したことを気にしながら出発。救援美術展の作品もついに出来ず。山内氏、杖杉庵、その他いろいろのこと、気になりながらやれず。母親、お守りくれた。いくら年とっても、子供は子供らしい。

ナンバから、空港までタクシーとばす。時間も時間少しおくれたし、第一くそ重たい荷物には参った。9時に少しおくれて着く。地平、大島、柏尾、森、そして、松田氏一家のお見送り。JAAの送金と、アキコへのハガキ投函の件、地平さんに依頼した。

一行全員と、空港の喫茶店に入るが、全く落ちつかない。無事に行けるのかな、イヤな予感がする。10時すぎゲートに入る。鉛筆けづり用のカッターが検査でひっかかる。

11時大阪空港を飛ぶ。12時東京着。13時東京発。シンガポールまで7時間、食事ばかり出て、全くうまくない、ウンザリした。現地時間の19時30分にシンガポールに着く。

機内は日本人も多く、言葉も日本語で楽である。ジャンボ機のかえのため、1時間半ロビーで待つ。マネーチェンジャーで、一寸金かえて、松田氏とビールのむ。オレもここで、はじめて外人とモノを言い買い物したことになる。とはいっても、オレは「ビヤ」相手「ワンビヤ?」「イエス」とこれだけだが。シンガポール時間の、21時に飛ぶ。ジャンボはよいが、前のヤツより座席はせまい。先が思いやられる。シンガポール航空のスチュワーデスも、そこそこ日本語が出来て助かる。何か注文すると「チョト待テヤ」という若い美人がいて、思わず苦笑するが、こっちは全く外国語がダメなのだから、笑ってはいけない。

シンガポール時間に時計を合せる。(以下同時間)0時45分にコロombo着。1時間給油その他で待機。外に出られず、このジャンボ機は禁煙となっており、全く苦痛である。

6時15分ドバイに着く。ターミナルに行って休めることも出来たが、バスのチャンスを失す。石油国、夜中とはいえ、上から見ると、明りがゴウカなもんだ。

7時20分ドバイ発。ここからスチュワーデスも代り、マイク放送

もすべて英語一本になり、さっぱりわからん。それでも少しはわかる人が居たか。それから、えんえん、7時間。タバコもすえず、座席はせまく、全く業をしているようなものだ。体は全く動かせず、メシばかり食わされ、ベンピになるし、参った。朝方、尾翼の近くの、喫煙してよいところで、タバコ3本タテつづけにすう。ヘビースモーカーのオレが、6時間も禁煙とは精神的にも苦業である。14時20分、パリのオルリー空港につく。現地時間では朝の9時5分だ。

6月28日(土) 雨

オルリー空港で、別便の荷物を受けとり、トラベラーズチェック、200ドルをフランに替え、バス電車でオーステルリッツに着く。とりあえず、荷物を、駅のロッカーに入れて、松田氏の先導でホテルへ行く。かつて、氏が泊ったところに当る。かなり高いらしいが、今のところ、オレは全く金銭感覚ゼロ。経験者にまかすしかない。

GRAND HOTEL DES ETRANGERSにとりあえず2晩やっかいになることになった。

ひる近く、ハラもへったし、松田氏の案内でサン・ミッシェル近くの、日本人の経営する、「京子」という店で、野菜いため定食、みそ汁、お茶は、久しぶりのような気もし、少し落ちついた。雨の中歩いて、オーストリッチ駅にあずけた荷をとり、帰り、地下鉄にのったものの、間違えて、反対方向、またもどり、結局タクシーでホテ

ルに帰る。ホテルでとりあえず、身のまわりのものをセイリして、風呂に入る。松田氏は、眠っておる。オレも風呂に入り、今、これを書いている。それにしても、ここにくるまで、何やかやと、スイミン不足がタタリ、目がへっこんで来た。体がもつのかね、全く。荷を片づけていると、出発前に母親のくれたお守り、無事に、パリまで来たよ。パリはずっと雨である。

(今、パリ時間、6月28日 P.M.6:00 HOTEL ETRANGERS にて)

6月29日(日) 晴

昨日は夕方の6時ごろから床に入った。疲れていたのに、コトもなく眠る。

午前0時すぎに起きて、松田氏と、森氏のくれた HAVANA CLUB という、キューバのラム酒を一本空けた。機内で少しのんだので、丸一本ではないが酔った。アテもなし、水も用心のためひかえした。午前3時ごろ再び眠る。8時に起きる。9時、朝食もって来てくれた。ハラがへっていたので、うまかった。このホテルも、かなり古いらしい。床も傾シャしているし物入れもテーブルも、マッスグなものはない。

松田氏体の調子悪い。風邪らしく、薬のんで2時ごろまで眠った。通訳が居なくては、どうにもならん。おれはウイスキーちびちびやりながら、ボケーとしていた。熱いお茶でものみたいが、松田氏

TEL でホットウォーターを注文すれど持って来ない。このホテルは、素泊りと、カンタンなパンの朝食だけ。

松田氏少し調子が悪くなったとみえ、サン・ミッシェル通りからフラフラ歩いて、オペラ座あたりまで行く。OSAKA ラーメン亭というところで、みそらーめん食う。19フラン、お茶2フラン、約1,000円なり。OPERA から地下鉄にのる。松田氏は地下鉄好きらしい。オレなら、これくらいの道のりは歩いて帰る。迷ってボーケンするのが本当かも知れんが。シャトレでのりかえ、サン・ミッシェルで降り、パンを買うが、あと夜食用の、ミネラルウォーターや、その他を買う予定であったが、松田氏、また急に気分を悪くしてホテルにあわてて帰る。再び寝込んでしまった。

午後3時ごろ、意を決して表に出た。全然言葉もわからず、一人歩きはさて、どうなるかと、内心ヒヤヒヤ。しかし、習うよりなれろ、どうなとなるやろと、地図をたよりに出発。むろん、京子という店で、適当な水や食糧を仕入れるつもり。

まず、サン・ミッシェル通りを北上、シテ島、ノートルダム寺院を見る。日曜とあって人も多く、寺院の前や、その他観光客がいっぱい。この近くをウロウロする。

ふたたびサン・ミッシェル通りにもどり、南下、サンジャック通り、パンテオン附近をあるく。あまり、人の居ないところで、自分で自分を写真とる。パンテオンうらの、教会一寸おもしろい。めざす京子という日本人店の前にたどりついたが、残念ながら休み。ついてない。

帰り、リュクサンブール庭園に寄る。人が多い。手ぶらで帰れんと思って、スーパーみたいな店を、またミネラルウォーターなど売ってる店をさがしたがなし。日本語の看板の店にも行ったが休み。残念。松田氏、ホテルのフロントに聞いてくれたが、日曜は、そういう店は全部休みらしい。松田氏、パン食って、シオコブ、ウメボシ食って寝た。よくなってくれないと、サッパリ。

パリの今日、夜の10時というのにまだ明るい。オレもパン食って寝るか。

6月30日(月) 晴 くもり。

松田氏最悪の状態。朝めしもあまり食わず、薬のんで寝込んでしまった。パリについた早々、松田氏も大変、オレも全く困った。ともかく、風邪は寝るのがカンジン。おれが、部屋にいても仕方なし、12時きっかりスケッチブックとカメラをもって出る。出るとき、フロントに、片言英語と、ジェスチャーで、1人は病気で寝ている旨伝えて出る。分ったのやら、判らんのやらワカらん。今日はサン・ミッシェル広場から、セーヌ川左岸を、西へ歩く。

2枚スケッチして対岸へ渡り、ルーブルの建物を見る。よくもまあ、こんな こったものを作ったものだ。チェイルリー庭園も美しく、ロダン、マイヨールの彫刻がいっぱい。また対岸に行き。大きい建物は、オルセイ駅。しかし駅の内部は取りこわしていた。元の道を

もどり、古本屋や、いろいろ見てあるく。シテ島に渡り、ノートルダム寺院のまわりを歩く。

後から見たところをスケッチする。写真も沢山写した。

夕方、松田氏のためにも何かと思って、京子という店に行ったが、ロクなものはない。

仕方なく、ぶっつけで買物に入った。パン、ハム、ミルク、水、ワインを買う。松田氏、パンとミルクを食した。じっくり眠ったせいか、大分元気が出たようでもある。オレは京子で買ったショウチュウをのんでいるうちに眠ってしまった。

このホテルは、朝食以外室内での食事は禁止。フロントで食品を持ち帰ったのを、とがめられたが、病人のためと、必死に手振り身振りで説明したら、やっとのことでオーバーなジェスチャーで、かんべんしてくれた。

7月1日(火) 晴、くもり 雨

松田氏朝早くから、ゴソゴソ荷造りはじめた。元気が出たようである。朝食後、オルリー空港へ、松田氏の別便の荷物を受けとりに行くが、場所も分らず、荷の受ける法も、言葉の通じぬ情なさで、2時間くらいかかる。それも、見るに見かねた、パリジェンヌさんが、最後までつき合ってくれた。そのあとオーステルリッツ駅で、切符の予約に行く。これも四苦八苦、ならんでいる列が間違っていて、

横にいたおばさんが教えてくれた。

オペラへ行き、オレの帰りの予約に行く。8月9日オルリー発とした。BANKに寄って、ラーメン亭でめし食う。いずれにしても、最低のモノを食っても1,000円以上かかる。

時間が少しあったので、モンマルトルへ行く。カメラを持って行くべきであった。

坂道の多い、家並も変化があって、やはり絵描きが集まるのはムリもない。広場に、絵描きが即売していたが、ロクな絵がない。こんなもんでも結構売れるのだろう。似顔絵かきも沢山いて、日本人も4、5人居た。

今日は、あちこちと電車で多く乗ったが、スンナリ行ったのは最後だけ。松田氏も度胸がいいというのか行き当たりばったりというか、何も分らんオレは、本当に神経が参った。オレに質問されても、どうしようもない。京子で夕食して、ホテルに帰る。2泊の予定が、4泊になってしまった。いま、午後10時、外はまだ薄明かりである。

7月2日(水) 晴

朝は、また雨かと、いやな感じだった。ホテル・エトランジェを、8時ごろ出発。タクシーでオーステルリッツ駅。8時57分発、イルン行きの、SNCFにのりこむ。松田氏のおかげで、ゆったりとできる旅。午後1時半ごろ、ボルドーに着く。かつて「ボルドー美術館

展」を見たことがある。こんなところかと思う。沿線は延々と田園地帯であった。午後4時、国境を越えて、スペインのイルンに着いた。次の切符のことや、今夜のホテルの件や、いろいろとめいわくかける。オレは、むろん何も出来ない。ハナから、その予定である。初めての外国旅行、オレ自身も気持の起伏がはげしい。6時ごろ、イルン駅近くの、HOSTAL LIZASOに入る。あと国境の町を散歩して、写真をとる。駅舎の廃屋に、ジプシーが、タキ火をしたむろしているのを見て、一寸恐ろしくなった。夜8時、といっても日の照る町の大衆BARで、かたいパンにハムをはさんで、ビール、ブランデー、コーヒー、シェリー酒をのむ。スペインの人たちは、本当にワインをよくのみ、大きな声で全くやかましい。なぐり合いが始まるのではないかと思った。11時ごろ店じまい、われわれジャポンが最後の客である。(散歩中、小さな額ブチ屋の工房を見ると入れといわれて見学、松田氏はスペイン語で話していた。日本人とわかると、マキタの電気カンナや、日本の時計など見せる) ここの夜10時ごろまで明るく、カンが狂う。

7月3日(木) 晴

7時に起きて、タクシーでイルン駅へ。駅であわただしくコーヒーのんで、8時35分発車。14時50分アビラ着、16時30分マドリッドに着く。くもり勝ちのフランスの風景とちがって、天気恵

まれ、つきぬける青空、大平原、岩盤のキリ立った山、大石のゴロゴロした丘、白い壁に赤屋根の集落、窓外の風景には満足した。アピラあたりから、都会らしくなってきた。好天気、白壁が目につきたい。駅からタクシーで宿につく。スペイン広場に近い、HOSTAL PRADERA というところ。松田氏が、いつも投宿するところらしい。シャワーあび、夕方からマドリードの町を散歩し、中華料理屋でカタイやきめし食う。夜は非常に活気にみちている。マヨール広場は人でいっぱい、穴ぐらといわれる、もとブタ箱といわれる、のみ屋に入る。せまいところに人でいっぱい、スパニッシュダンスの手拍子で面くらってしまった。この辺り、スペイン・マドリッドのもっとも有名な夜の街であるらしい。帰り道、松田氏知り合いの、のみ屋に入る。10時ごろまで、例によって明るい、11時ごろに宿にもどる。何か、ガックリつかれた。

* タクシーの車窓からみえる道路標識に、ZOO と書いて象の絵が描いてあるので、びっくりしたが、動物園のことらしい。

7月4日（金） 晴

朝、松田氏パン買って来てくれた。11時ごろ出る。マドリッドの街中を歩いて、プラド美術館へ行く。JAA のカードで無料。作品が多いので今日は主に、ベラスケス、ルーベンス、ゴヤを見る。あとはまた後日。ネプチューンの噴水前で、ビールのむ。カンカン照り

のもと、のどがかわく。全くうまい。せっかく買って持参した水も、松田氏ひとりじめ、全部平らげてしまった。スペインのベテランが、何たることか。マドリッドの街中を、4時間も歩き、またビールとイカのフライ食う。これは日本人の口にも合う。フランス国鉄のビュッフェの焼肉だけは、とても歯が立たなかった。昨日のスペイン列車のスナックの肉とジャガイモはうまかった。キャンプ用のガスコンロ、米、醤油、塩ETCを仕入れて帰り、松田氏の手料理で野菜タマゴいためで夕食。何やかやと金がかかる。そろそろシマらんと、日本へ帰れなくなる。いま10時半、マンブクしてホッとしている。しかし今夜は暑いと、表でスペインの連中、大きな声でシャベリまくっておる。やかましい奴ら。

(今朝パンといっしょに食べたチーズに、虫が5,6匹いて、ぞっとして、思わずハキ出すが、何匹かハラの中へ入ったかも……参ったなあ)

7月5日(土)

なんかしんどい。昨日に続いて朝メシ用のパンと、ひるめし用のパン等を、松田氏買って来てくれた。今日は朝方少し涼しいのでゆっくり眠ってやろうとも思ったが、思いきって出かけた。12時すぎアトーチャ駅発、2時間くらいでトレドについた。駅からすぐのところ、絵や写真でおなじみのトレドの橋が見えた。その見える木陰

で持参のべんとうを食う。ここでオレは一枚描きたかったが、松田氏はこんなところおもしろくないとドンドン行ってしまう。歩いて行くうち、再度スケッチしないかと申し出たが、ついにチャンスなし。オレは一体何しに来たのかと思う。松田氏にとっては何度も来て、つまらんかも知れない。かつて潮岬へ、彼とスケッチに行った。オレは見なれていて描かなかったが、松田氏がスケッチする間の長い時間待った。この一週間、松田氏との他人に対する気持の違いをはっきり知らされた。スケッチ用のくそ重たい荷物を終始持たされて、とんだサンチョパンサだ。やはり、冒険してでもスケッチは一人で歩くべきだ。8時すぎ、マドリッドにつき、ソル広場近くの「どん底」という日本料理屋でメシ食う。久し振りに冷やっこと、日本酒のむ。今日は全く暑い一日。ホテルに帰って、水をかぶって頭を冷す。トレドからの車中、東京外大の留学生と会い、いろいろと話をした。トレドでは、アルカサル、カテドラルの見える風景は絵葉書的ではあるが、魅力ある。日本人の観光客も多いとみえて、土産物屋では、日本語で話しかけてくる。日本人3割引などといい、客寄せに「チョット待テ」などと呼ぶ。グレコの家に入る。ここの館員も、ちゃんと日本語を話す人がいた。

じっくり絵を描きたい。油絵は無理だが、1日5枚はスケッチしたい。松田氏とは目的も滞在時間も違うのだ、同じようにしてはいかんだ。観光や遊びに来たのではないのだ。

7月6日（日） 晴

昨夜も寝ついたのは2時ごろか。朝10時30分松田氏に起こされる。毎日曜にあるラストロ（のみの市）を見に行こうという。果物を食べと言われたが、目ざめの悪い方で何も食わずに出発。刀や拳銃、動かん時計や、面白いコットウ品、その他なんでもある。特にとびきり変わったわけでもないが、めばしいものを探す人には持って来い。松田氏、うまい具合に、わずか50ペセタで、素朴なツボを手に入れた。オレもほしいが、ゼニと、帰りの荷の重さを考えたら、土産は出来るだけ軽く、金のかからぬ、気持だけにしたい。それにしても、ハラがへって、ぶったおれそうになる。通りのレストランへ入ったが、注文してから、出てくるまで1時間くらいかかった。のんびりしておる。3時ごろホテルに帰り、2時間ほど眠った。今夜も松田氏の料理で夕食。ジャガイモに玉ねぎの煮込み。なかなかうまいもんだ。二人で日程について相談する。ハガキなど5通書く。スイミンをよくとったせいか、体調よし。 *マドリッド地下鉄〈平日 12ペセタ〉〈日曜 19ペセタ〉

7月7日（月） 晴

今日はゆっくり眠った。例によって、松田氏、パンやその他の食料買いに行ってくれる。その間、オレはお茶などわかす。11時ごろ出発、国立図書館の、王立フェルナンド美術館（同館は改修中）の

仮展示場を見る。ここにもゴヤの傑作あり。この会場で、松江在の人で、1年の予定でスペイン留学の奥山さんと出会い、あと三人で動く。CASA MINGO という蔵のような、城壁の中のような面白い店で、トリの丸やきとMINGO酒のむ。これはうまかった。あと、サン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ寺院に描かれたゴヤの壁画見る。

これには、いささか感動した。これまでのカンネ的な宗教画とちがい、テーマも技法も新しく、ゴヤに対する認識を改めたわけでもある。この教会に、ゴヤの墓もあったが松田氏によると、いろいろ問題はあるらしい。三人で、ロープウェイにのり（非常にゆれて、スリルあり）カサデカンポに登った。ここで三人正式に名乗る。マドリッド遠望1枚描く。

三人でSOLにもどり、ビールとイカの天ぷらで乾杯。明日を約して別れ、松田氏と、宿の下の、のみ屋でブランデーのむ。このマスターは実に陽気だ。宿で松田氏作る夕食。ありがたや。今朝300ドル現ナマにかえる。兄、母、牧野、山口、中西、地平、各氏、それに小津氏、今日が個展のオープンなので祝言を書いて、6通ハガキ出した。

7月8日（火） くもり 雨

松田氏とともに起きたのが8時。奥山氏と約束の時間である。顔を洗って、とるものもとりあえず飛び出す。チャマルティン駅まで

タクシーで行く。三人、なんともなく合流して、アビラへ向かう。朝からうっすい天気、現場に着いて寒いくらいである。堀田善衛氏の説のとおり、夏でもセーターを忘れるなであった。アビラの駅前で寒気ざましの酒を買う。

松田氏半ソデで来たので、セーターを売っているところをさがす。レストランで、パンとコーヒーのむ。墨壁のつづく、城さいを歩き、山というか、丘にのぼって、アビラ遠望のスケッチを一枚描く。ジャリ共寄って来て、カメラをかつばられるのではないかとヒヤヒヤした。天気がよければ、もっとスケッチできたのだが、あいにく雨になって、まことに残念である。止むを得ず、6時すぎの電車で帰る。時間待ちの間、レストランに入るが、いずれにせよ食いものは高つく。帰りは、ノルテ駅につく。この駅は、映画に登場するような、ロマンティックな古い駅。奥山氏と、地下鉄、ソル駅で別れ、夕食を再び日本レストランどん底ですますも高い。日本円にして¥4,000くらいだ。宿に帰って、シャワーあびて、少し酒のみながら、日程について打ち合わせする。スケッチに彩色する。体調も、食事も、この国にも、なじむには、まだ時間が、かかりそうである。

7月9日(水) 晴

例によって、朝松田氏の仕入れて来てくれたパンを食って10時半ごろ出発。よごれた上着、クリーニング屋に出す。高いな。百貨

店に入り、食料や必要品を仕入れる。これをさげてブラブラしたので、全くカタがこってひきつりそうだ。現代美術館でタピエスの大回顧展を見る。他、常設のスペイン出身の多くの作家の作品も見る。スパゲティを食って、一旦宿に帰り、奥山さんにTELして、GOYAで会う。丁度、大島渚氏の「愛のコリーダ」をやっていたので見る。ノークットなので興味があつたが、一体何を言おうとしているのやら、理解に苦しむ。8時すぎ宿に帰りメシ作って（松田氏の作）食う。今日はひどく疲れた。

7月10日（木） 晴

ここのところ、マドリッドは夏にすれば寒い。サファリの長そで
でいいところである。

昨夜、11時ごろに眠って、10時すぎまで。久し振りによく眠ったというが、風邪気味である。ハナミズが出て参る。ひる前、王宮に行き、内部を見学するが、ガードマンのつきっきりで、流れ見学である。SUNYAで昼食。3時ごろ、松田氏と別れ、おれは再びブラド美術館へ行く。絵画は、一応見た。4カ国語のガイドブックがあつて、イングリッシュ版の、一番安いのを買った。400pts あと、スケッチしようと思つて、歩きまわる。

レティロ公園に行ったが、モノにならず。適当にウラ道に入ったりして、西へと歩き、ノルテ駅近くの公園から、一枚スケッチした。

8時に宿に帰り、スケッチ2枚に彩色する。

9時半ごろ、松田氏と散歩。途中ビールのんでまたSUNYAに行く。松田氏の用件のための、つきあいめし。12時ごろホテルに帰る。明日セゴビア行、奥山氏と約束あり、松田氏SUNYAとの用件あり、どうなるやら……。

7月11日(金) 晴

8時半に起きて、パン食って、9時半、アトーチャ駅に行く。松田氏つき合ってくれたが、彼は、SUNYAの社長と、2時に用件あって、奥山氏と二人、セゴビアに向かう。約2時間セゴビアに着き、松田氏に教えてもらったオントリアという村へ、タクシーで行く。一寸した丘でひるめし食い、羊の群に会う。羊追いのオッサンに、カメラむけると、キゲンが良い。スケッチしようとする、2人の少年に会い、それがだんだんふくれ上り、大人も入れて20人くらい、ゾロゾロとシリをついてくる。スケッチどころではない。人珍しいとか、陽気とか。連中は村のはずれまで、さらに、街道を、自転車で追いかけてくる子供もいた。写真うつしてやると、その写真をおくれと、アテ名や、名前を聞き出すのに、会話ブックをめくりまわして四苦八苦。なんとか通じた。セゴビアの駅前でビールのみ、ホッとする。タクシーでセゴビアの、中心に入る。ローマ水道橋は、見事なものであるが、とても絵にはならん。町中を見物して、

フランコ広場に来てウロウロしていたら、松田氏タクシーで来るのと、うまく会った。ガイドのベテランがいないと困る。

早速、ホテル・ビクトリアで泊りの予約をして、再び町中を散歩して、ビールのむ。

土産物屋、写真とったら、店の人、キリツしてくれたが、あとで写真送れと、えらいことになる。9時、ホテルにもどり、夕食。えらくデラックスな夕食で割合に泊りも安い。

町で買ったブランデーのみ、夜中に眠る。

*町のはずれまで追って来た子供たちの中に、奥山氏が会話集をたよりに名前をたずねたところ「ホセ・アントニオ」というのがいた。我々はオーと歓声を上げたが、本人はケロツとしていた。

7月12日(土) 晴

9時ごろ起きてめし。3人でセゴビアの町中を歩く。遠くに見えた村まで歩く。雲一つない晴天である。寒村とはいえ、立派な教会があったり、荒涼たる原野を見渡して歩く。村の入口の小さな教会の前でスケッチして、町で買ったパンとハムを昼食。

ZAMARRAHALA (サマーラハラ) 村。さらに村の中に入り、何枚かスケッチする。

たった一軒のバーに入り、ビールのむ。暑さに参ってこのビールは実にうまかった。このバーでタクシーを呼んでもらい、セゴビア駅

の途中、ドライバー氏は心得たもので、セゴビアのアルカーサルや、見晴らしのいいところで何度も停めてくれ、われわれの記念写真もとってくれた。午後、5時半くらいの電車で出発。アトーチャ駅から、ソルでおり、3人でビールのむ。カンカン照りの中、よく歩いたのが、アタマがほてってボーッとしている。

奥山氏、先に帰ったが、松田氏と2人は、根がはえたように、椅子にへばりつき、さらにビールのむ。疲れた。タクシーで宿に帰るが、部屋の下の方でBARで夕食と酒。このマスターは実に好感あり。

7月13日（日） 晴

今朝はお互い11時ごろまで眠った。昨日の強行軍はコタえた。例によって松田氏の料理で朝昼兼用の米のメシしっかり食う。どうもハラの調子がよくない。我神散、太田胃散、ガラニスケなどのむ。夕方5時半ごろまでゴロゴロする。闘牛（トロ）を見に行く。奥山氏も来て、いっしょに見る。話のタネにと思ったのだが、ワケもわからずに闘牛場に放り出された牛は、一様に面くらったようにキョトンとしている。それをムリヤリ殺してしまうのだから、我々の感覚としては殺生な話である。9時すぎに終り、地下鉄でスペイン広場の近くの、ヒロコという店でヤキ肉、冷奴でメシ食う。1,500pts 食いものは高い。シマらんと帰れなくなるぞ。明日は、奥山氏と3人でチンチョンというところへ行くことになった。

7月14日(月) 晴

松田氏に起され、奥山氏との約束の時間10時の10分前。えらいこっちゃ。で、タクシーでとび出したものの、O氏のすすめでスール駅まで行くも白タクにだまされて、わずかのキョリを300ptsとられた。全く、外人、イナカ者のやること。悪い奴。ともかく元にもどし、アトーチャ駅から電車にのる。アランフェス駅におりて、少しあるき、村の入口のところでビールのみ、チンチョン行の方法について松田氏に聞いてもらったが、要領を得ず、駅にもどって、めし(といってもパンに生ハムを)をたべて、いろいろ聞いてまわったあげく、タクシーを呼んでもらってチンチョン村についた。タクシー代は700ptsである。

古い闘牛場もあり、古い町のようにもある。今日は5枚スケッチした。教会の近くに、我々は向い、それぞれ絵を描いたが、バラバラになる。スケッチの途中、奥山氏と会い、闘牛場へ向うところでビールのみ、あやうくバスをのがすところだった。松田氏、えらくおこっておった。このバスはアトーチャまで見事にブツとばした。アトーチャ駅近くの、のみやでビールのみ、お互いの金の精算をする。SOLで奥山氏と別れ、我々は宿に帰り、メシ食って、松田氏の料理で食事。あと、調子にのって、下のみ屋でのむ。ここのマスター気前よく、えらいサービスよし。マスターは元ボクサーのようで、若いころのボクシングのポーズの写真を、店にかざってある。

MANNER VELLARという名前らしい。通称マローノさんである。

○アランフェス駅にて

あたまのハゲた、酔っているようなジイさんが近寄って来て、チノ、チノと言う。そして松田氏の通訳によると、中華料理店につとめているという。われわれを中国人と思って、お互いの共通点を示したく思ったのであろう。駅員さんは、この人たちは、ハポネスだと説明しているのがわかった。この駅員さんは親切で、二度も電話してタクシーを呼んでくれた。この付近には王様の離宮があり、見学には庭園といい、一日かかりそうである。

次に機会があればにしたい。木陰の、ハエがとびまわっている茶店といい、いかにものんびりした町である。

○チンチョン村はかなりヘンピな地点に当たるようだ。闘牛場もあり、素朴な村と見受けた。

○アトーチャ駅近くのBARにて

松田、奥田氏と、アトーチャ駅について、金の精算もあり、BARに入ってビールをのみ、ジャガイモを食べていたら、小さい子供がやって来てパタータ・パタータという。

ジャガイモをくれというのが分り、一つやると、子供を抱いた母親らしいのが、もう二人の子供に当然のように残りのイモを食わせる。礼も言わなかった。それを見ていた中年の、パリッとした人が、この母子を表につき出した。さらにそれを見ていたオジさんと、追いついた人と口論になった。しかし、われわれが見るほど彼らは、

論争がレクリエーションであるかのように思われる。

○アトーチャ駅から、O氏は、チンチョン行きのバスは、スール駅から出るので、またタクシーにのったが、わずかのキヨリなのに300ptsとりやがった。

スペインも運転手も悪い奴がいる。ちなみにアランフェス駅から、チンチョンまでの長い道のりで700ptsである。*チンチョン村～マドリード・アトーチャ駅 バス料金 109pts

7月15日(火) 晴

11時ごろに起きた。例によって、松田氏食料を仕入れに行ってくる。こっちは言葉が出来ないので何も出来ない。仕方なし。2時ごろ、スパゲティと、昨夜の残ぱんを食う。二人とも、どうも腹の調子がよくない。5時ごろ、フラリと宿を出て、SOLの百貨店に入る。

ここで、子供向けだが、ドン・キホーテ 2巻が(1冊195pts)でエッチングと思われる挿絵が面白いので買った。スペインの地図も買う。後学のためである。百貨店はモノを言わなくても買物が出来るのがありがたい。松田氏、画材を仕入れるのにつき合い、ついでに切手、絵はがき、等を買う。SOLで、軽くビールのんで、9時半ごろに帰り、松田氏に夕食作ってもらう。オレが作っても良いが、彼の口に合うやら。もっぱら、食後の洗い物に専念している。いま、

ホッとしているところだが、すでに午前 1 時近い。表では町の連中、相変わらず、大きな声で井戸端会議が続いている。

*日本も、このところ、浮浪者がふえているように思うが、マドリッドも多い。それに、目の悪い人、足の悪い人が、非常によく目立つ。

7月16日(水) 晴

昨夜というか、今朝にかけて、下の、のみ屋さんが、歌をうたうは、大きな声でしゃべってくれるし、ほとんど眠れず。それに早朝に来るゴミ取り車のやかましいこと。この辺の連中の神経をうたがう。朝がたは涼しかったのでウトウトしたが、それでもスイミン不足。10時ごろに起きたか。松田氏、パンを買って来てくれ軽い朝食とする。1時ごろ、松田氏の買物につき合って、SOLから地下鉄にのり、ACACIASでおりて、マドリードの、いわゆる下町を歩き、スケッチしようとして、入ってはいけないところらしいところに入って、ポリスカ、守衛におこられる。スケッチ一枚だけ描いて帰る。スイミン不足がコタえたか、パン食べて、アゴの痛くなるような肉を食い、あとコテンと眠ってしまった。2時間くらい眠り、6時半、エサの仕入れに松田氏と出かける。トリ肉と、玉子、玉ねぎ ETC. 松田氏の料理はうまいものである。夕食にビノー一本あける。

明日、ドン・キホーテの村、ラ・マンチャ地方へスケッチに行く。奥山氏に、松田氏が連絡 TEL したところ彼も行くらしい。

*日本のようにタバコは専売ではないらしく、ここに来てタバコの値がサッパリ分らん。

よく買うDUCADOSは、買う場所によって40になったり、今日は23であった。露店の連中はムチャクチャだ。今日はチャンとしたタバコ屋であったが。

7月17日(木) 晴

朝8時30分に、一応起きたが、まだ時間ありとみて眠ったのがいけなくて、10時におき、あわてて松田氏を起こしてとび出す。タクシーでチャマルティン駅。我々2人は、時間には信用失った。ともかく、クエンカ行の列車には間に合った。奥山氏はともかく、われわれは何も食わずとび出したので、ハラがペコペコ。クエンカ駅前近くのレストランでメシ食うが、これも又えらく高くついた。松田氏がかつて泊ったというホステルを訪ねるも満員で、別のところへ行き、結局そのトナリの部屋に決る。ところが、奥山、松田両氏とも、ベッドでグーグー眠ってしまった。窓から見える建物を1枚描くも、二人とも眠ったまま「日本から眠りに来たお二人さん……」と書きおきをして、スケッチに出ようとしたら、松田氏目がさめて、オレは勝手に出て行くというと、みんなも行くという。川筋を歩いてスケッチする。そのうち3人ともバラバラになる。8時半ごろ、皆が待っていてくれると、いかんので帰ろうと思って山を下りて来たら、松田氏と会う。丘の町の中心街をあるく。

面白い構造の町である。途中ビールをのむ。下り坂で、オッサンにつかまり、ムリヤリ、5pts でビール買わされる。レメルこれは安い。ブランデー買って帰る。

ホテルの入口で、やはり奥山氏待っていてくれた。荷物を置きに帰り（カギが開かず苦心する）宿の食堂へメシ食いに行く。明日の日程について話し合う。ここからラ・マンチャのドン・キホーテの村の風情のあるところへ行くことになっていた。この期に及んで松田氏はスンナリ行ける便はないという。いささか酒も入っていたので、いらぬ文句を言ったかも知れん。それにしても、松田、奥山両氏とも、気楽なもの。オレは絵を描きに来たのだという、二人ともシラケてしまった。実にオレは気分悪い。2人とも、いままた、グーグー寝てケツカル。こいつら何しにスペインまで来ているのか、オレにはわからん。

ろくすっぽ絵もかかん、間があったら眠っている。ワカラン。全くワカラン。

* HOSTAL FONDA (泊)

7月18日(金) 晴

荷をおいたまま、10時ごろ、ホテルを出てツーリスモへ行く。案内書と、ポスターもらう。

クエンカの抽象美術館の写真のポスター。立派なものだ。町のバー

で軽い昼食後、宿に荷物を預かってもらい、山手の MUSEO DE ARTE ABSTRACTO ESPANOL へ行く。

崖に密着して、空にとび出した建物もさることながら、抽象作品ばかり集めたその構想も立派だと思うし、展示の仕方もかなり神経を使っており、非常にぜいたくな感じがした。

本来、美術館とは、こうあるべきなのだ。絵はがきを少々買う。ガイドブックもほしかったが金も少なくなり、帰りの荷のことを思うとあきらめた。午後、崖と同居した丘の町、クエンカを何枚かスケッチする。何となく町中で落ち合って、5時半ごろ町の広場の BAR でパン、ハム、ビール。しかし、ここもえらく高くとりおった。土産物屋に入り、面白い壺が手頃な値であるのだが、重量を考えて小さいのの一つだけ買った。

19時20分、クエンカ発でアランフェス着、21時50分。バスでセントロに行き宿さがしが始まるが、二軒は満員で断られ、やっと三軒目でOKとなった。

シャワーをあびて持参のブランデーをのんで眠ったのは2時ごろか。スペインのいづこの町もそうだが、夕方といっても午後9時ごろ、斜陽のころ、光の影がくっきり出て、立体感が出て美しい。(朝がたもそうであろう)

*クエンカ～アランフェスに乗った電車、といってもディーゼルカーだが、まるでバスを少し大きくした感じで、ゆれること、はなはだしい。

7月19日(土) 晴

10時、ホテルを出て、町の銀行で、トラベラーズチェックを現金に替えた。あと1,000ptsしかないので。駅のバーで朝食。しかし時間の読みちがいで電車は出てしまった。

CAMPO DE CRIP TANA へ行く予定。この次は夕方しかない。三人は思案にくれた。

ドン・キホーテの村は、とうとう駄目かと、いささか落たんしたが、思いきってタクシーを交渉してもらった。3,000ptsで行くという。見渡す限り、島と平野のラ・マンチャ地方を100km以上でぶつとばす。アランフェスから150kmもあるそうだ。途中、オカーニアの町を通過する。大きな刑務所があったり、運ちゃんは手をくくった形を示して、いっしょけんめいガイドしてくれる。アメリカーナの作ったレーダーや基地もあった。

クリップターナの町に入ったのは、2時ごろか。運ちゃん、なかなか好感がもてる人。

いっしょに食事に入る。羊の肉やトマトスープ。CAFÉ BAR “LOS MOLINOS” という店。モリーノは風車のこと。ここのマダムは太くてキップのいい人。我々の席によって来て、モリーノを見に来たのかという。我々は、ハボン・ピントールであるという、この店に、少し前、1ヶ月滞在していた日本人のプロフェッショナル(といった)のエカキが居たという。その人はTAKUMA TOKUNAGA だという。四人は食事が終わり、出ようとする、マダムはコーヒーを、もう一杯のめとサービスしてくれた。運転手は、帰りマドリードま

で4,000ptsでどうかという。感じのよい人なので、そうすることにした。風車のある丘に来た。まさにワンダフル・ベリーグーである。こいつが見たかったのだ。つきぬける青空、目に痛い白壁、ファンタジックな風車が6～8基。まるで夢の世界のようである。強烈な光と影、人ひとり見えない昼下がりの町。音も何もない。何もかも静止した風景である。広々と果てしなく広がるラ・マンチャの平野。無理しても来てよかった。しかしながら、40度くらいあるのではないか、いかに意欲的にスケッチをとハリキッテいたが、さすがにこの暑さに参った。頭がクラクラと来た。2枚スケッチしたのみで、体力的にダウン。

あらゆる角度から写真をとりまくった。風車の中に入れてもらった。チャッカリと金をとられたが、粉ひきの構造が分かって興味わく。午後5時半ごろ、クリップターナーの丘をおり、運ちゃんに頼んでもらってTOBOSOの町に入る。ドン・キホーテゆかりの地である。ドン・キホーテの恋人ドウルシネア姫の故郷ということで、町の端にその家があった。

そして国道ぞいの屋敷も、何かゆかりがあるらしく、壁面にはタイル絵でドン・キホーテの物語の絵にした10点くらい組み込まれていた。ガイドブックに出ている、国道301号線のドウルシネア姫のゆかりの旅館、レストラン、VENTA DE DON QUIJOTEとは違うらしい。(松田氏の説明によると……) マドリードに向けて車をとばす。アランフェスで休んで、運ちゃん知り合いの店でイチゴにクリームをかけたものを食う。うまかった。

マドリードの我々の下宿の前まで送ってもらった。運ちゃんと、ほとんど一日行動を共にしたわけだが、長時間いっしょにいと、情がわくというもの。非常に親しげな表情を示して、彼はかたく握手をして、グラシヤス、アディオスを言って帰った。また用があったら、呼んでくれと電話番号を書いていった。松田氏らの説によると、我々の支払った7,000ptsはかなりの収入になるらしい。奥山氏も、我々の部屋でオールドパーをのんで休んで、日本茶のんで、表通りで軽くセルベッサをのんでバイバイした。夜シャワーを頭からかぶる。明日、彼は我々の部屋へ遊びに来るといふ。今回の二泊三日は、これまでにない実り多いものであった。電車ならクリップターナーも、あきらめたかも知れんし、TOBOSOの町は見ることは出来なかったであろう。今回の旅は金もかかったし、ぜいたくな旅ではあったが、車のおかげで大きな収カクがあった。よかったと思う。何よりも運転手氏が、人がよかったのが運がよかったともいえる。

* 運転手氏 JOSE CHEVLO
C/CAPITAN n-58
ARANJUEZ - MADRID
ESPAÑA

* CHEVLOさんは、スイス、フランシア、ドイツなどへも行っていたことがあるらしく、それらの国の言葉は話せるという。レストラン・モリーノでテレビを見ながら、食事したわけだが、近い国で動乱があったらしく、死体など映され、氏はスペインも今や140万人かの失業者がいるのだと案じていた。また、同氏は、カーについてかなり興味あるらしく、最新の情報を教えてくれた。それによると、近くトヨタの輸入が決まっており、

現在スペインで自動車のほとんどがSEATであるが、トヨタが入るようになればSEATは追い出されるであろう……と、多分に日本人のわれわれを意識してのことであろうと思われるが、走行中にもJAWA SPORTと書かれた単車を指して、日本のズキだと教えてくれた。

CHEVLOさんの話とは違うが、数日前から、日本航空がスペインに乗り入れた。そして、東京銀行が、この国に开店するようだ。カメラ屋のショーウィンドーを見ると、キャノン、ミノルタ、ヤシカ、コニカ、そしてニコンと、日本のカメラが多くをしめている。

闘牛場でも、列車の車内でも、アサヒペンタックスを持っている人が多かった。ヤマハ、シチズン等の広告もよく見る。

7月20日(日) 晴

今日も暑い。昨日のTOBOSOの村や、CRIPTANAの風景にはかんどうしたが、夏の日温室にとじこめられたような一日で、頭から火が出そうであった。今日一日は休養と決めた。10時半ごろまで床の中に居たが、あついで熟睡できない。奥山氏1時に来るというので、我々はメシを食わず若干の用意をして(といっても松田氏がやってくれた)待つ。

その間に、兄と母、聡子に絵はがきを送った。聡子にも、オレがスペインに居ることを知らせておいた方が良い。アキの母親は外国に行く金があるならと、いらぬ文句を言うかも知れんので知らせな

かったが……。2時すぎ奥山氏、米やみそ汁の素など持って来て、3人で久しぶりの日本食を食う。ハラがふくれて3人とも昼寝する。7時ごろ、近くの公園でビールのみ、奥山氏帰った。松田氏スンヤに用事があるというのでブラブラ歩いて途中でビールのんで行ったが休み。そこで奥山氏もスイセンの大中飯店に入ってヤキメシと、煮込うどん（スパゲティ）食ったが、大してうまくない。しかし値段は実に安かった。

あと散歩して帰る。本格的な疲れが出て来たような気がする。食い物で、内臓が特に参っているのではないかと思われる。

7月21日（月） 晴

昨夜は、暑いのと、やかましいのとで2時ごろまで眠れなかった。朝10時半に松田氏に起され、銀行や百貨店につき合いますが、半ボケで頭がシャンとしない。松田氏の用件でスンヤにひるごろ行くことになっており、スンヤに行けば、レストランだからメシ食わんといかんで、ハラがへってもガマンして、スンヤにやっとたどりついたが、主人が不在で一旦帰る。荷物を部屋に置いて、ヒロコという日本レストランへ、おそい昼めしに行く。女経営者と初めてモノ言う。それにしても、奥山氏は有名、マドリードの日本語のしゃべれるレストランでは顔である。食後公園の木陰でいっぷくしながら、ゴヤのパンテオンと称される、サン・アントニオ、フロリダ寺院へ

ゆき、2枚スケッチした。

食料を仕入れて、マローノさんでビール一杯のんで、松田氏早速料理してくれる。オレもやらんといかんが、何せこの部屋の主は彼である。出しゃばってはいかん。もっぱら洗い物にまわる。昨日、奥山氏のくれた日本の米のメシ、やはりおいしいと思った。

暑いせいばかりではないだろうが、一寸荷物を持って歩いているも、ものすごく肩がコル。足はだるい。今日珍しく、日本式の汗をかいた。シャワーをあびてサッパリしたが、疲労が重なって来ているのだろう。すぐにバテてしまう。

————— 以下、一寸値段の話 —————

松田氏封書を出すので、中央郵便局へ行き、人によって、切手代いろいろとちがうので、局で正式に教えてもらった。

*封書は 38pts 絵はがき 32pts (To : JAPON)

ついでに地下鉄が、昨日から上がった。

*平日 12pts ~ 15pts

*日曜 19pts ~ 25pts

フィルムがなくなったので写真屋で買う。

*フジカラー 378pts

*コダカラー 420pts 日本より高い。

7月22日(火) 晴

10時半ごろに起きる。11時にアトーチャ駅に行き、24日からユーレイルパスを使うので、その日付の記入と、グラナダ行の長距離の座席予約に行く。と言っても松田氏が手続きをしてくれ、もっぱらオレは荷物番。あちこちの駅で目立って多いのがカニ族というらしい。

ゴザや寝袋をかついだ連中の多いこと。ゴロゴロと仮眠したり、地べたにへたりこんでいる。今日は明らかに日本の女性と思われる若いのが一人いた。約束の2時にスンヤに行く。(SUNYAというのはワケが分からなかったが、あとでマダムに聞いたところ店名の、新雅飯店の中国読みらしい) 4時ごろまで食事して待っていると、経営者の池上氏が現れ、同氏がめんどろ見ている画家・小松 欽さんを紹介される。日航のオフィスに寄り、28日に帰る(日本へ) 小松氏の作品発送の手続きにつき合い、池上、小松、松田氏と、2台の車で、150kmもあるMEDINACELIへ行く。ここに池上氏の金魚の養魚場があり、レストランより、氏はスペインの金魚屋(池上氏自称)として有名であるらしい。3月ごろ東海テレビで取材に来て、6月に30分番組として(大阪では朝日)放映されたそうである。それを見た日本人から多くの手紙が来ているという。小松氏は、池上氏のマンションの一室で、仮のアトリエとして使い、半年、この本拠として、中古車を買って、スペインはおろか、ポルトガル、モロッコまで走り、作品を100点余り作ったそうである。小松氏は49才学校の教師を長年やっていたが、ぬるま湯に耐えきれず、定年を待

たズスペインへやってきて、前は1年余り、今回は半年、退職金を使い果たしたと笑っていた。

今夜は池上氏の手作りのおかげで、夕食をよばれる。昨夜、松田氏と久しぶりにマグロの刺身を食いたいなどっていたが、今夜、そのトレトレのやつをハラいっぱい食べた。

ブランデーやりながら、夜おそくまでしゃべり、夜中2時ごろ眠った。

表は幹線道路で、やかましいが、オレはブランデーのおかげで寝られた。

7月23日(水) 晴

朝、池上氏が金魚のエサのミジンコを採りに行くので便乗して、MIÑO DE MEDINACELIでおろしてもらいスケッチ2枚描く。村の子供や、大人も見物に来て、何やかや言ってくれるがサッパリ分らん。2時間くらいして、池上氏迎えに来てくれ、またも手作りの昼食をごちそうになる。この池上氏は大変めんどう見がよいそうで、藤田吉秀、鴨居 玲なども世話になっているようだ。今日は、ヨーコさんという、フランス、スペイン6年という絵描きも加わった。午後は、小松氏の運転で、絵描き4人が、SMAËNという廃墟のような村へ行く。一種異様なフンイキである。ここでスケッチ3枚描く。小松氏にARCOSという駅まで送ってもらう。予定の電車が1時間

訂正	5行上
誤	: 藤田吉秀
正	: 藤田吉香

おくれ、駅前の店でビールのみながら、電車が入るまで、お二人は、つき合ってくれた。

養魚場で池上氏と、SMAËN で小松氏、ヨーコさんと記念写真とる。いろいろと多くの友人ができた。外人もいるぞ。SMAËN のBARでも子供がよって来て「チノ?」と言われた。「ノー・ハボン」とどなる。チャマルティンに10時半ごろ着く。疲れているのでタクシーで帰り、荷物を置いて、メシを今から作るのもめんどうなので、プラザ・エスパーナのヒロコという店に夕めし食いに行く。広場で、ベンチでいっぷくし、マノーロさんの店で酒のむ。2時にカンバンで追い出されて、部屋に帰って、さすがにコテンと眠ってしまった。

7月24日(木) 晴

10時半ごろ起きたが、二人とも二日酔。グラグラするし、胃の調子がおかしい。

今日は休養日としたいのだが、GRANADA 行きの予約がある。重い気分で荷物をまとめ、重い足どりでタクシーでアトーチャ駅。朝から何もハラに入っていない。我神散と太田胃散3服ものんだ。駅でのどがかわいたのでビールを1本のんで電車にのりこむ。シートは指定だし、冷房もきいて申し分なしだが、胃の重たく感じるのは過労のせいかな。2時ごろ車内でメシを食ったが、大してうまくもなし。数度、うとうと眠りながら7時間半は割合早くすぎたように思う。

13時発、グラナダ着20時30分。

明日と明後日を、じっくりスケッチしたいので、明後日の夜行寝台の予約をとってもらったが、えらく高くつく。グラナダの駅から、ブラブラ歩いて、セントロあたりで泊まる場所をさがす。スタミナ充分なら、なんでもなかろうが、今は重い荷物がコタえる。

プラザ・BID ROMBLA 前の HOTEL RESIDENCIA LOS TILOSに入った。2人で1280ptsまあまあか。早速風呂に入り、アタマからシャワーをあびる。少しホッとしたところで、メシを食いにいる。表で、うまく日本人に会えたので、その青年に、中華料理屋はないかとたずねたがなし。日本人には、ここがよかろうと、COPILLA REAL 前のレストランに入ったが、油っこくて半分も食えず。レストランには悪いが、ほとんど残した。

ここでも小松 欽さんの名は有名である。その青年もよく知っていると言う。

それにしても、ハードスケジュールだ。かてて加えて食べ物は合わず、暑いのとスイミン不足、胃も腸もバテて来た。

さて明日はスペインは全国的に休み。7月25日はサンティアゴの日。今夜泊まったホテル、各階に、いい壺が飾ってあるので、取り上げて見ようとしたら、テーブルにくっついておる。よく見ると壺の底に穴をあけて、ビスでねじこんである。壺の底に穴をあけるのもむつかしかろうが、やはりどの国でも、黙って失敬する奴が居るということか。

7月25日（金） 晴

昨夜は朝の4時ごろまで眠れなかった。そのくせ、8時半に時計を逆に見て、ひる前と思ってトビおきた。再び眠り、11時ごろにおきた。となりの店でコーヒーとパン食う。タバコ買いに行き、帰り道CAPILLA REAL（王宮礼拝室）を見学する。当時の王の墓や棺、それに絵や宝物。（入場料 50pts）このカテドラルを出たとたんに一人のスペイン人が我々を見て「コンニチワ」と声をはりあげ、びっくりしたが、続いて「キリガトウ（アリガトウ）」「ウレシイワァ」……。思わず笑ってしまう。いったんホテルにもどり、スケッチ用具を持ってアルハンブラ宮殿に行く。ここからサクロモンテの丘、アルバイシンの町を望む。

見事な景観であるが、絵にするのは、かなり時間がかかる。とりあえず写真をとっておいた。宮殿を見てあるいているうち松田氏はバテてしまい、最後まで見ずに帰る。

オレは少しスケッチしたかったが、こういう時は困ったもんだ。

ホテルにもどり、帰り道にのんだビールがきいたか、いよいよ疲れてきたか、松田氏が、グーグー眠ってしまった。オレもついにつき合い2時間ほど眠る。

アルハンブラ宮殿は、一時期放置されていたとかで、かなり荒れているものの、天井、壁、のき下までほどこされた彫刻には参った。西洋のアラブの王様は、恐ろしい奴である。

こんな彫刻をやらされたら、気が狂ってしまいそうである。

9時半ごろメシ食いにしようと思って、フラメンコのポスターが

あったので聞いたところ、バスで送迎して600ptsという。グラナダのフラメンコは一寸質が悪く、個人で行くなど、ガイドに書いてあったので、ためらっていたが、それならば安心と行くことにした。ホテルを通じて、結構客が動員されており、穴倉を舞台にした、タブラオも、二つ舞台があり、観光客相手に、ちゃんと態勢がとどっている。奥行一間、間口一間半くらいの小さなステージで、2組8人のダンサーがおどる。その1組は、どうも一家のように思えた。

1時半ごろバスで帰った。酒屋がないかと探したがなし。完全にシラフである。

今夜も眠りにくいかも知れん。

7月26日(土) 晴

土曜だし、金もなくなったので、グラナダ・セントロにあったBANCOでトラベラーズ・チェック200ドル ペセタに替えたが、少しドルが安くなっている。先週の土曜にアランフェスでも替えたが、そちらの方が率がよかった。それにしても、1週間で200ドル消えたのは、少し注意しないといかん。帰れなくなる。

町中を散歩して、ツーリスモに寄り、パンフとポスターもらおうと思ったが、ポスターはなし。スペインの各地に、それぞれちゃんとツーリスモがあるのは立派。ガイドブックによると国あげての観光政策の現れであるらしい。BARで、パンとバターをぬったパンを

食い、ホテルに荷物を預けてサクロモンテか、アルバイシンをスケッチに行くべく、ホテルに頼むとOK。さればと金の精算をしたところ、昨夜のフラメンコの代金 1,200pts がぬけておる。松田氏は早速シメタというわけで、悪く言えば逃げようということになった。

ホテルに荷をあずけていたのでは、伝票見て、付け落ちの金額はすぐ発見される。いま、預けたばかりの荷を、駅にもっていきと言って二人はホテルを出た。この辺りが実は不自然なのである。二人は何故か急ぎ足で、細い道をかけるように歩いてタクシーを探した。しかし、悪いことは出来ぬもの、タクシー乗り場でホテルの番頭さんにつかまって、フラメンコの代金を請求されたのである。マンガである。

ともかく駅までタクシーをとばし、駅の荷物預り所だと思ったら、かつて預かった荷物の爆発事件があって、一切預からんという。今さら重たい荷をかついでスケッチに行く気力もなくなっている。今夜夜行の寝台をキャンセルして、グラナダ 14 時 55 分発の急行で帰ることにした。少し時間あったので昼メシ用のパン、水、シェリー酒を買い、車中でのみ食いして、ウトウト仮眠しながら……。松田氏と席を離されたので、それしかない。22 時 15 分にアトーチャにつき、どん底で夕食。ハリコンで日本酒を久し振りのむ。

約 6 勺くらい、24pts。ウイスキーも、スペインに来て一滴ものまないが、(高いので) 日本酒もべらぼうに高い。どん底のおやじさんにたのんで、4 合ビン 1 本、特に 600pts でわけてもらい、持ち帰った。それでも 1 合 450 円である。気分よく酔ったものの、疲れがひ

どく、重い荷物を投げ捨ててやろうと思うくらいである。夜の12時半ごろに、宿に帰る。

松田氏は、下の、のみ屋、マローノさん（店の名前はパリース）へ、アトリエの部屋の一件で相談に行った。オレは2,3洗濯して干す。お茶わかしてのむ。今日は日本茶が一番うまい。二泊三日でグラナダへ行きながら、泊まったホテルから、ながめるビブランビラ広場を一枚描いたのみ。悔いが残るが、体力がついて来なかった。しかし何とんでも、ホテルのフラメンコの料金を忘れたのをいいことに、逃げようという悪い考えが、わざわざした。素直に支払って、ホテルに荷物を預けていれば4~5枚のスケッチは出来たであろう。人間は正直でないといかん。今週は一晩だけ帰ったものの、深夜の2日酔、5日間出っぱなしは少しコタえた。そろそろ帰路につく日が近づいてきたが、荷物のことを考えると、全く頭が痛い。

☆ 余談・ホテルの追いかけて来た人、いや、田舎者が多分、ここへ来るだろうと「待っていた人」は善良そうな人だった。なんか後味の悪い気分である。

7月27日（日） 晴

昨夜から朝方、涼しかったので、よく眠った。ひる前に宿を出て、途中BARでコーヒーと、ドーナツみたいなパンみたいな（チューロというらしい）ヤツを食って、ラストロへ行く。

2度目だが、前回より興味深かった。特に古道具屋というか、使
いものにならんもの、一体何に使われたのか分らんものまで、時間
があれば、じっくり見れば見るほどおもしろい。

途中で松田氏、ハラが痛いトイレに行ったので一人で半時間く
らい見物する。

面白く、ほしいものがいくらでもあるが、金と、帰りの荷物のこ
とを考えて自重した。

ワインの栓ぬき、スペインの扇子2本、キーホルダー5ッ買う。
相変わらず、ハラ痛をいう松田氏と、タクシーで宿にもどり、おかゆ
を作ってウメボシ等で食事。ラストロで、有名なジャパニーズレス
トラン東京飯店に寄ったが、満員であった。

松田氏が眠っている間、ハガキ5通書く。母兄、牧野、山口、中西、
杉山氏あて。

松田氏、少し元気が出て来たので、6時すぎからフラリと散歩に
出る。部屋の中で、とじこもっていても仕方なし。しかし、このと
ころ、少し暗くなるのが、少し早くなって来たようである。散歩の
途中、ニヶ所でビールのむ。道で古本屋があって、松田氏は、ロル
カの詩集と、ヒメネスの本を買った。オレもスペイン語が読めるなら、
何としてもほしい本である。10時ごろ帰り、晚めし炊いて食う。例
によって、オレは洗い方専門。ヒルのおかゆはオレが作った。さて、
今の予定では、29日（明後日）オレはマドリッドをはなれる。

松田氏も、パリまで送りがてらに、ついて来てくれるので道中安
心だが、いろんな準備で明日は忙しくなる。銀行で金替えて、宿代

の精算。汚れものの洗たく。デパートで若干の買い物。ハガキの発信（切手）。宿の人にお礼の色紙。ETC……。

あとの日程は、サラゴサ、バルセロナで4泊くらい、フランスに入って、マルセイユで2～3泊。パリで航空会社にフライトの確認をして、2日間パリになるか。オレはルーブルで1日、モンマルトル、他で1日としたいのであるが……。

今日は、ゆったりしたつもりだが、何かまだ疲れがとれていない。

*ラストロ～店のうちで、へビの頭を、キーホルダーにしたのや、ウサギの頭を玩具にしたり、さっぱり分らん。

7月28日（月） 晴

まず郵便局へ行き、切手を買って、母兄、牧野、山口、杉山（新聞社）中西（後援会）の各氏5通のハガキ出した。いや、一番に行ったのはBANCOだった。100ドルを金にかえたが、一時より割安。コーヒー、パンの軽食で、ブラブラ歩き、大きい食料品店で若干のエサ仕入れる。松田氏カルロスなんかいう酒、みやげにくれた。当地では有名な酒であるらしい。店のオッサン、我々が日本人とわかると、しきりにすすめてくれたのが月桂冠、白鶴など日本酒である。4合ビンで500ptsくらい。百貨店に入り、土産物の若干の小物を買う。ドン・キホーテと、サンチョパンサの木彫の人形ほしかったが、1組で一番小さいのが、1,500ptsなので一寸考えた。宿の近くの高級

な店で、スパゲティ食って帰る。荷物のセイリをはじめ。宿の人にあいさつをして、今夜までの宿泊代を精算する。主人たちと記念写真を写す。せんたくをして干す。夕方、出る。ドン・キホーテの木彫、どうしてもほしくなったので、再びデパートへ行く。ところが、目をつけていた分は売れてしまっていた。逃がした魚は大きい。え、いと思いきって、一寸大きいのを買う。1,750pts である。日本円で5,000 円くらいか。チャマルティン駅へ行く。明日のサラゴサ行の座席の予約であるが、明日は満席。ドン行で行くかと考えたが8時間もシンドイ。一日のばして予約をとった。駅のBARでビールのんで、帰り、松田氏の料理で日本酒のむ。料理のナスビのたいたのがうまかった。酒もうまい。二人とも10時半ごろ寝る。12時前に寝るのは、スペインに来て初めてではないか。それにしても、一寸歩くと疲れが出てくる。かなり強行軍で、疲労がたまっているのであろう。明日は、思いきり、ゆっくりして、のちの日のために体力をやしなうことにしよう。駅へ行く途中、ANGIELさんにつかまり、ビールをごちそうになり、松田氏と記念写真をとった。

7月29日(火) 晴

ひる近くまで眠った。久し振りに、ゆっくり寝た。しかしながら、何かしんどい。

うどんか、そばを食いたくなって、ヒロコへ行ったが、火曜日定休。

やむなくぶらぶら歩く。BARで二軒、ビールのんだり、マドリッド市内、歩いてないところを選んで歩いてみた。アトーチャ駅まで出た。どん底でタヌキそば食う。タヌキといってもアゲが入ってない。そばと天カスが入っている。ひる前、ひとりで散歩に出た。何か事件があったらしく、ポリシアの車が走りまわり、車もひどく渋滞していた。タバコを買って帰る。

色紙を1枚描いて、宿の主人にあげる。スケッチブックから、チンチョンの絵である。

夕方、ミロによく似た宿の主人が恐縮したのか酒をのめと、生ハムと、コニャックを持って来てくれた。あつかましくのむのもいかなので、少しだけいただいてあとはお返しした。

色紙を10枚持って来たが、帰りの荷を出来るだけ軽くしたいので、残り9枚と、スケッチブック1冊、松田氏に差し上げた。夜、松田氏が、マノーロさんに用があるので、つき合いで、下の、その店へのみに行く。オレは明日から帰路につくというので、マノーロさんコニャックをゴチそうしてくれた。この店で知り合った、非常に日本人的な人、ANGIELさんとも、松田氏の通訳で別れのあいさつをする。お互い住所も教え合った。今夜はえらく酔った。宿の主人、ミロ？さんは、オレを一人者かと聞いた。松田氏は、そうだといいた。もう少しおれば、話はまとまるのに……なんておセジを言ってくれる。

7月30日(水) 晴

朝8時半に起きる。ボヤーッとしたままタクシーでチャマルティン駅へ。A.M.10:00 発のタルゴ。タルゴは初めて乗る。座席はゆったりして、こいつはよろしい。車内のアナウンスも、スペイン、フランス、ドイツと英語で放送。同じハコで、日本人の倉本繁喜氏と知り合う。マドリッドに居たが、今はバルセロナで仕事しているそうだ。雛の鑑別という、面白い仕事をしている。28日付の東京新聞をもらった。1ヶ月ぶりに見る日本の新聞。

ウワサは聞いていたが、日本の首相は鈴木ゼンコウであることを活字で確認した。うたがいがいぶかいのかね。鳥取のホテルで、集団乱闘事件、すべて大阪の人間という、フキ出すようなニュースものっていた。

サラゴサに、14:30に着く。とりあえず、駅のレストランでメシ食う。ホテルの客引が、いたりしたが、荷物のことを考えて、駅近くのHOSTALに決める。2人で1,500pts。

少し高い。自重せんと金が足りなくなる。サラゴサの町セントロを歩く。かなり大きい町である。堀田善衛の「ゴヤ」にも書かれたという建物を、松田氏に教えられて、写真とる。ここの市場の建物は見事であった。何かの旧せきかと思ったが、そうでもなさそうだ。しかし、中には、ブタのアタマから、耳がブラ下っていたり、こういう形態が残っていると、一寸気分が悪い。カメラは実に重い。疲れているせいもあるが、肩がコッて仕方なし。8時すぎ、ホテルの近くの、のみやみたいな店でメシ食う。今日のメシは、まあまあう

まかったといえる。サラゴサの町も、じっくり探訪したら、いろいろあるようだが、何せ疲れて駄目。神経がにぶっておる。倉本氏の話。氏は農業の専門家で、スペインの土地はやせていて、どうしようもないという。市民の貧富の差もはげしいと言っていた。政府も農地改革に手を打ったそうだが、地主たちの猛反対でパーになったという。マドリッドも置引や、カッパライが多いそうだ。明日、ゴヤの生まれた村へ行くことになっている。あと10日間、そろそろ金の方が心配になって来た。当初の予定の日数が、すぎている。慎重に…。

7月31日(木) 晴

ホテルに荷物をあずけて、バスで、ゴヤの生まれた村へ行く段取りだった。

ところが、ホテルは、今夜メシ食うところで預かってもらえという。昨夜は素泊りだったので、キゲンが悪いのかも知れん。このホテルで、メシも食わせてくれたのである。

それはともかく、重い荷物を持って駅まで来た。駅の荷物預り所も、テロリストの爆発事件があって、スペイン中の駅は、一切荷物を預からないのだという。おまけに、大カバンの車が一つない。さてさて途方にくれた。カバンが、まっすぐ動かん。せっかく、ここまで来て、次へ行くのもシャクだ。何のために、サラゴサに泊ったのかわからんではないか。

タクシーで、ともかく荷物を一切のせてもらって行くことにした。この運ちゃんも人が良いらしく、メーターを、たおさず、1,200ptsで行くと言う。FENDETODOS（フェンデトドス）へ車をとばす。ゴヤの生まれた家があったところで休む。公の機関で管理しているらしく、丁度カギを持っている人が不在ということで、町中で写真をとる。スケッチしたいが、車を待たしておいてそうもいかず。やがて、カギを持った人が、かけつけてくれた。70才くらいの人か、何でも元校長先生とかで、この村きってのインテリだという。それより先、車で村へ入っていくと、戸口から、窓口から、無言の、いっせいのお出迎えて、あちこたからハポネスの、ささやきの声が聞える。さて、ゴヤの家の中を見せてもらい、7才まで、この部屋で絵を描いていたのだと説明してくれるが、トレドのグレコの家同様、にわかに信用しがたい。伝説は、いくらでも大きくひろがる。しかし、建物の内部や外観は、往事を、しのぶに充分である。そこで、元校長先生が、サイン帖を見せてくれて、お前も書けというので書く。他に、日本人の来訪も多いようだ。鴨居玲、亀田正雄、他に名前の知る人の署名があった。中でも堀田善衛の「三度目のゴヤもうで、この村の繁じょうぶりにキョウタンいたし候」と書いたのが目に止まった。向って、左側のおねえさんは美しい人であったが、店の名前が、MESON DE MAJA はよかった。ゴヤのポピュラーな名作の婦人の名である。右側に小さな美術館があり、版画の数点は本物と思えるが、あとは模写と、関係のないアマチュアの絵ばかり。

今日は朝早くおきて眠い。こんなことなら、ゆっくり眠るのであつ

た。ともかく、ゴヤの村から、駅まで引き返したのがひるごろである。松田氏に何度も列車の変更をたのみに行ってもらったが駄目。スペイン人はユーズーがきかん。ともかく駅のレストランでメシ食って、昨日予約した18:15分発の列車を待った。ボストンバッグの、重い方の車が、いつの間にか一つなくなって、思うように動かず、けりとはしてやりたい、ハラが立つ。

ともかく列車にのり、ウトウトしたり、ビールのんだりして、22:30分ころ、バルセロナ・テルミノ駅についた。駅の近くのHOSTAL sta MARTAに入る。晚めし、中華料理へ、タクシーにのったが、100が、200とダマされた。シャクにさわった上、中華屋さんは丁度閉店。トボトボあるいて、(この町は夜が早いようだ)とびこみで入る。ヤキメシは、カタいメシ。タラの油あげはまざるまざる。仕上げにコニャック。ここの注文聞きの兄さん、あいそがよろしい。帰る途中、立ちのみ屋でコニャック一杯のむ。非常に疲れた。右肩がコチコチ。車のとれたバッグのせいだ。

8月1日(金) 晴

昨夜も眠るのがおそく、疲れていてもジユクスイ出来ず、10時半ごろに起きた。ホテルのとなりのBARで、コーヒーとパンを食ってテルミノ駅(ホテルのすぐ前)へ、座席の予約と、オレは駅の銀行へ小切手を現金に100ドルを替えた。699ペセタになる。はじめ

のころは700pstいくらあった。あと、小切手100ドルになった。えらいこと、尻に火がついた。予定通り、1ヶ月の旅で帰っていたら、100ドルくらいは残った。駅で、用件が終るのに2時間かかった。駅で若い女の子のグループ、駅前にも日本人に5,6人に会った。よくしたもので、ニコッとあいさつになる。外人が見たら、ほとんど中国人に見られるようだが、われわれは、やはり日本人は見分けられる。不思議なもんだ。駅の用事が終って、町中を歩き、ともかくミロ美術館をということで地図をたよりに行くがさっぱり分らん。スペイン人に何度も道を聞いてもいいかげんな教え方である。おそらく、地の人は、ミロなんて興味ないのかも知れん。ともかく、坂道をウロウロして、途中、テレビの録画を木陰で見物したりして、やっと4時半ごろミロ美術館にたどりついた。個人の美術館にしては立派なものである。JAAのIAAカードで入れた。これだけの美術館だから、ミロの全貌をうかがえる作品があるものと思ったが、入口近くの小部屋をのぞいて、ほとんど1960年代から以後で（昨年作まで）新しい作品ばかり。それもモノクロームのアクションペインティングばかりで、ガッカリした。小部屋にあった、ミロらしいフォルムのはっきりした、カラフルな作品は、ほんの数点。ミロ美術館と銘打つにしては、正直いってこれはという作品がなかった。他に、全世界から公募したと思われる版画の作品が、ギッシリと別コーナーに陳列されてあったが、日本の作家のが、20人はあった。JAPを注意してみたが、知人はなかった。フジタ・ヒロシというのがあったが、マサゴ画廊でよくやる、あのフジタ氏だろうか。スペイン人

に道を聞くと、親切というか、5人おれば5人が教えてくれる。しかも同時にだ。マチマチにしゃべりまくるので、結局サッパリ分らなくなる。要するに、シャベルのが好きなのだ。ゴヤの村へ行ったときも、車で村に入ると入口といわず窓から顔を出して、いっせいにお出迎えてこちらは気持悪いが、実はそうではなくて、好意的なのだ。したがって、口をきくと、待ってましたとばかりに寄ってくる。ミロ美術館を出て、ブラついたものの、道に迷い、とんでもない方向に向っていた。ともかくよく歩いた。クタクタになる。話するのもめんどろ、それをフクれていると松田氏は言う。松田氏の方向感覚はパリ以来、信用出来ない。道の途中で、かき氷の入ったジュースのむ。つめたくておいしかった。ビールものんだ。ビールをのんで暑い中歩くので、よけい疲れるのかも知れん。ランブラス通りのBARに入って、ビールと、イカのフライ食ったら、さすが、バルセロナのメイン・ストリートえらく高かった。この町は古い建物と、新しいそれと両立して、木立も多く、新旧ゴチャマゼである。ついこの間まで見て来た、スペイン気質や、風情がなく、なんとなく、フランスに近よっているようだ。港町のせいだろうか。いや、今日、スペインに来て、初めて海を見た。たまたま道に迷って、中華料理屋をさがし、ランブラス通りから路地に入ったが、妖しげな不気味な空気だった。中国人が多く、いずれも目つきが悪い。堂々とバックもやっており、店の明かりも、赤やピンク、女たちも化粧がどぎつく、あきらかにオカマもいた。ゴシック地区の中の、大華という、中華料理店を見つけて、ヤキソバ、ヤキメシなど食う。ここは、う

まくて安かった。この店では、耳なれた日本の演歌がBGMとして流れていて、なつかしい思いがした。しかし、言葉は中国語。多分台湾での吹き込みなのであろう。

ホテル近くのBARで、水を買うために、ブランデー一杯のみ、水をもって帰る。シャワーあび、道で買ったコニャックを、いま、のんでいる。右肩がコッてコチコチである。また、髪の毛がのびて気になる。イライラして来た。

8月2日（土） 晴

10時に起きた。オレは大へん大きいイビキであつたらしい。疲れがとれない。予定通り、1ヶ月の旅にしておけばよかった。1ヶ月はキリのいいところだ。3ヶ月、半年なら、またやりようもあろう。国を出てから、36日目である。くたびれて、ダレて来たころだ。

ホテルの、となりのBARで、昨日と同じく、コーヒーとパンで出発。ピカソ美術館へ行く。バルセロナ、エルミノ駅前は、古色そう然としたゴシック建築の建物がたてこんでいる。

本によると、12世紀に出来た町という。港町だけに、町づくりも早かったのであろう。

そんな町中にピカソ美術館があった。外観は往時のままである。ここもIAAカードが通用した。少年時代の作品から、晩年の連作版画まで数1000点はあつたろうか。ピカソ美術館と銘じるだけの作品を展示してある。ミロ美術館のように、建物まで新築して、中味

はつまらんものでは困る。それにしても、少年期の、板に描いた沢山の小品は、めったに画集ではお目にかかれただけに、見学のねうちは充分にあった。そして、技法の巧みさは、やはり、天才的である。絵はがき4枚と、ポスター1枚買う。売場のおじさんは「800」とか「ありがとう」とか、日本語でいわれて、こっちがびっくりした。また昨年、上智大学で1年留学したという青年がいて、日本人を見つけては話しかけていた。版画の複製や、他にもほしいものが、いっぱいあったが、金もあと少なく自重せざるをえない。ピカソ美術館は見ごたえあった。美術館を出て、ガウデイの建物を見に行こうかと話し合ったが、昨日の一件（道に迷って4～5時間歩いてダウン）があるので、疲れているので残念ながらあきらめた。駅前の広場でビールのみ、一旦ホテルに帰り、残っていたクラッカー、チーズ、レモンで、ひるめし代りにして、コニャックを少しのんだが、松田氏もひるね、オレも眠ってしまった。5時ごろ、再び出発、港の方へ行く。スケッチブックや絵の道具をさげていく。松田氏は、浜で洗われた小石（彼の奥さんが、それでブローチなど作っている）をひろう用件があったらしい。オレもいろいろあろうが、松田氏は悪イクセの一つに、他人に目的を告げずに、ひっぱりまわすところがある。オレは港の周辺をスケッチするところないかと、フラフラ歩く。港の常として倉庫街、港湾関係のオフィスばかり、写真を何枚かどったが、絵にしたいところなし。浜を引き上げてくる松田氏と、うまい具合に会う。石を拾って重いので、ホテルに帰るといのでオレは一人で港の周辺を歩く。8時半に、コロンブスの記念塔の下

で落ち合う約束をして、2時間余りフラフラした。港には、コロンブスが大陸発見に乗ったというセントマリア号?のイミテーションがあったり、港内一周の遊覧船があわただしく発着したり、でっかいフェリーボートの出入など、絵を描くのを忘れてボケーと見ていた。しかし解放された気分であった。60ptsで港を回る船にのってやろうと思ったが、勝手に先にのると、松田氏がおこるだろうと思って、そのうち会ってからいっしょに乗れば良いと思っていたら、松田氏はサッサと先に乗っておりて来た。性格、性分のちがいである。フェリーの乗り場では、ナントカカーにボートをのせた連中が多く、バカンスに行くのであろう、けっこうな人も多い。松田氏は、港を、またランブラス通りを散歩をするつもりだったらしい。しかしオレは断った。どうぞ行って下さいと。オレは疲れた。松田氏もやめたらしく、昨夜行った大華飯店へ行く。ヤキメシと、スープとビールでよいというのに、まだ何かとった。松田氏もエエかっこしよる。立ちのみのBARでもチップおきよるからね。三度ほど行った広場のBARで紅茶にコニャックを入れてのむ。ホテルに帰り、シャワーあびる。明日、松田氏は、ヘローナへ行こうというが、明日の体調の都合である。オレはどっちでもよい。ヘローナにはグリ美術館があるが、それは見たいけれども、ガイドブックにも地図なく、地図があっても昨日のようなことになりかねないので、長時間歩くのは、今はゴメン。

8月3日(日) くもり 晴

珍しくどん天である。例によって、トナリのBARで、パンとコーヒー。ランブラス通りをフラフラと歩いて、ツーリスモへ行くも休み。次は、ガウデイの、日本語訳では、聖家族教会の未完の塔を見に行く。写真などで大まかなことは知っていたが、実物を見ておどろく。岡本太郎の万博の塔などはこれのえいきょう大であろう。ともかく既セイカンネンにない、どぎもをぬく構想である。まだ工事中ではあるが、中に入れてくれたので入ることにした。エレベーターで、完成部分の塔の上まで運んでくれた。人間ひとりギリギリに歩けるラセン階段が、下から、延々と続いているわけだが、風当たりが強く、下しか見られない窓も気持ちわるい。正に天国への階段のイメージである。

また地下には、この寺院の完成模型や、多くの資料が展示されており、これを見て、やっと、あらかたの全貌は理解できた。完成模型を見ると(その設計も未完)まだ10分の1も出来てない。1884年に工事が始まったというから、もう96年経て、まだ200年はかかるという、恐るべき建築物である。外から見ただけでは、そう興味がなく、またガウデイについては、知識もなく、面白い建物をデザインするくらいしか知らなかったが、これで少しは興味がわいてきた。内部に入ってよかった。認識を改めたわけであった。

*ガウデイの建物を出たところで、ションベンしようと思ったら12ペセタ取りやがった。ババアめ。ゼニ取るのは、ウンコだけとちがうのかい？

地図を見ながら帰るが、松田氏は、オレを信用せず、途中、間違いないやろな E.T.C. と文句サンザン。ご自分の方向感覚は如何なりや。ホテルのバーで、カキ氷の入ったジュースのむ。部屋に帰りいづく。(駅で、中西さんのために、スペインのパイプタバコその他を買う。松田氏、葉巻協力してくれた)

8時すぎホテルを出て、中央郵便局前の、レストランへ行く。この地に着いた最初の夜に行った店。注文聞きの兄サン、非常にアイソウのいいのが、気に入っていたので今夜も行く。ヤキメシ、タラ、イカ、ビール、コニャックなどで夕食。ここも安いレストランで、我々の口に合う。レストランを出てから、松田氏、どうしてもチノ地区を見たいという。この前も中に入って、少し気持わるかったが、まだ明るかった。ガイドブックに、ここには夜おそく行くなどあった。それを見て、余計行きたくなかったか。恐いもの見たさか、オレはどうでもよかったが、一人では不安ついて行くことにする。酒屋でブランドデー一本買い、中を見学。大阪でいう、かつての遊廓の、西洋版。なかには、コンバンワなんて、あいさつする、遊女？オカマ？もいた。ハダカ電球の好きなスペイン人、暗いのが好きなといたいくらいだが、この地域になると、赤、ピンクの明りで、ガゼン色っぽくなる。いかにもそれらしい女たちも、丸太みたいなオバハンから、若いキレイなものもいた。地域に入ってみると、クソ度キョウで、かなり歩いてみた。とても、ここは一人では歩けない。

明日は、朝、いよいよバルセロナを発つ。マルセーユに向う。

8月4日（月） 晴

8時に起きる。ホテルの、となりのバーで、パンとコーヒー。荷物をまとめて、午前9時25分バルセロナを発車。近くの席に、日本人の青年のヒッピーみたいなのがいた。

TEE 国際列車、食堂車が、注文聞きにきたが、「やめとこ」というのに、松田氏 OK してしまった。1時間待たされて、1時間のフルコース。フランスに入ると気位が高いのか。その上二人で210フランもとられ、しかもアビニヨンに近づいて、あわててとび出す。ゼニも時間も、ひどい目にあった。

スペインとフランスの国境の町、Port Bou は、車窓から見て、一寸面白い町であった。地中海に面した、時間があれば、立ち寄りたところである。スペインに入る時に、立ち寄ったイルンも面白かったが……。午後3時15分、アビニヨンの駅でおりて、電車待ち。日本人の画家に会う。彼はプロヴァンスに向う。オレは名のっておるのに、自己紹介もせん失敬な奴。主体美術の男らしい。マルセイユ行にのる。タマタマこのハコは、日本人ばかりになった。女性の添乗員？さんの指揮のもと、団体さんである。午後5時マルセイユに着く。主体美術の男、どこかへ消えてしまった。ともかく、重い荷物を、駅のコインロッカーに入れ、松田氏に明日の列車の予約をしてもらい、オレは最後の小切手100ドルを現ナマに替える。400フランになる。フランスは何でも高いので、シマツして、歩いてマルセイユ港（旧港）に来た。まずホテルをさがす。一軒目は満員で断られた。スペイン語の少しわかる青年がいて、松田氏と会話し、

HOTEL LA RESIDENCE DU VIEUX POAT に決める。しかし、2人で180フラン、ざっと日本円にして1人5,000円フランスはガゼン高い。昨夜まで4泊した、バルセロナのホテルは、1泊2人で1,100ペセタ。1人日本円で1,800円。明日からの、パリ4日間、思いやられる。しかし、高いだけのことはあって、立派なホテルである。あらゆるものが完備、見晴らしもよい。ホテルに入って、目の前が、マルセイユ港である。目の前の丘の上に寺院があったり、絶好の風景である。6号スケッチ見開きで水彩スケッチした。12号大。8時ごろ、日も暮れかかって、町に出る。夕めしを食うためだが、やっとスペイン語の少しわかりかけたころ、フランス語は全然アカン。

中華料理をさがすも、メニューはオールフランス語。かなり歩きまわったが、これという食いものもなし。やっと思い切って、上海飯店という店に入る。ちゃんと、日本語のメニューもあり、女主人も少しは日本語がいける。案ずるより生むが安し。その上、アルジェリアで仕事をしているという、日本人グループに会う。11時、ホテルにもどり、風呂に湯を入れて久しぶりに湯につかる。松田氏と交代し、オレは、マルセイユ港の夜景を1枚描く。コニャックを2人で空ける。

8月5日(火) 晴

昨夜は、久し振りに湯につかったせいか、部屋もベッドもよいせ

いか（高いだけのことあり）ゆっくり眠った。10時半ごろに起きて、オレは6号大のスケッチ一枚する。マルセイユ港入口の、要さいの跡を描いた。11時コーヒーのみに行き、ホテルに引き返してチェックアウトで、金払って出る。いいところ、いいホテルではあるが、今のわれわれにはコタえる。マルセイユの駅まで歩き、列車の時間待ちに、駅前のカフェで1時間、いっぷく。途中で買ったフィルム、えらく高い。14:38発に乗る。1等でクーラーつき、他にだれもいない個室、気分よし。ウトウトする。駅で買ったホットドッグ食う、アビニヨン、リヨンを通過。22時、パリのリヨンに着く。重い方の荷物をロッカーに入れ、（たよりないロッカーだが）サン・ミッシェルへ、ホテルをさがしに行くも、めんどうになって、来るときに泊ったエトランゼというホテルにした。少しは事情の知ったところがよいであろうと思った。さてさて、夕めしということで、京子へ行ったが、閉店。すじ向いの中華料理店に入ったが、本格的な中国語と、フランス語のメニューしかない。こうなると松田氏まかせ。ところが出て来たものは、ブタマン？（に似た奴）二つと、上品な豆腐のような一口料理。ちなみに、松田氏は、ハ宝菜と、マーボー豆腐をたのんだらしい。注文して正解が出たのは、ビールとワイン。サン・ミッシェルの角の店でメシの食い直し。ハンバーグみたいな奴。これは一寸食い切れなかった。バーでコニャック一杯。昨日も今日も、失敗が続いている。それも、フランス国に入ってから。無事に帰れるものやら。

松田氏、ユーレイルパスが切れるので、明日スペインへ戻るといふ。

いいかというが、無理もたのめない。フライトの確認、ホテルの確認さえ、してもらったら3日間、一人でパリで何とかしよう。それにしても、マルセイユから、パリまで、フランスの国土も広い。スペインのように、やせた土地でなくて、青々とした大地が、豊かな風土が延々と続いている。

8月6日(水) くもり 晴

8時に、朝食のボーイさんに起こされる。ここは160フランではあるけれども、朝めしが、ついているだけマシである。さて、今日は、いろいろと忙しい日である。行動の順を松田氏と打ち合せをする。10時ごろ出発。まず、金をチェンジしないといかんで、BANKをさがしながら、トボトボ歩き、そのうち二人とも忘れてしまって、気がついたら、オーストリッチの駅である。くもり日で上着がないと寒い。止むなく駅のキャンピオで替える。

もう、オレは現ナマしかないので、3万円を出して、500フランしかない。フランスは全くのゼニのねうちなし。マルセイユの100ドルは、2日で消えた。地下鉄で、ルーブル駅でおりて、シンガポール航空のオフィスへ行くも、機械が故障で、4時に来てくれという。ボロ航空会社大丈夫かいな。それではということで、この周辺を歩く。まず、大阪ラーメン亭で、それぞれ好きなものを食う。オレは、大盛りみそラーメンと、ビール。松田氏は、カレーライス。あと、

オルリー飛行場までの、日本でいう、空港バスのターミナルを見学に行く。いきなり行ってウロたえるより、何らかの予備知識があった方がよい。ここは、エールフランスの、実はターミナルなのだが。松田氏は、シンガポール航空の、乗場も聞いてくれた。オルリー（南）である。地図を見ると、ロダン美術館が近くにあり、せっかくだから、行って見ようとしたが、松田氏はガンとして方向が違うという。オレも地図をたよりであるが、松田氏は、オレが、あちらこちらといたり、これが士官学校やなどいたりすると、何で分るねんとか、そんなところにあるかとか、素人のオレが口出しすると、トタンに機嫌が悪くなる。いつもそうだ。だから、オレは、こっちだと思いつきでも、黙ってついて行くようにして来た。しかしながら、一ヶ月あまりつき合った、松ちゃんの方向感覚だけは全く信用出来ない。とんでもない方向へ歩き出すのだ。今日は、そんなことで、いよいよムカッ腹たててしまった。今日でお別れ、もう一息ガマンすればよかったと、いまは思っている。地図の方向通り（当り前だが）ロダン美術館へ行く。庭のきれいな、ショウシャな建物。JAAのカード通用した。ロダンの作品はむろん、同じころの仕事仲間の彫刻や絵画も飾ってあった。ゴッホの絵3点もあり、タッチの一つ一つ、やはり情熱がこもっている。久し振りのゴッホ、感ガイを新たにした。朝はパリの夏は、こんなにかいなと思うくらい寒かったが、ひるごろから暑くなり、明るい陽光をいっぱい浴びた青々とした庭には、ロダンの名作、地獄の門、考える人、バルザック像などが置かれていた。

オランジェリー美術館は、何故か閉っていて、印象派美術館は人がいっぱい、ルーブルは正に長ダの列、満員札止めというところ。日本人がいっぱい。今日ほど日本人の団体さんと数多く会ったのも珍しく、日本の町を歩いているみたいである。

4時シンガポール航空オフィスへ再び行く。フライト確認その他問合せ。フライト、パリ～シンガポール～大阪、いずれもOKと出た。またまた道に迷いながら、地下鉄で、GARE DE LYONへ、昨夜預けた荷物を取りに行く。タクシーで帰り、一人部屋に替えてもらう。一ヶ月前来たときに、顔見知りになった受付の人が、オーバーな身ぶりで、迎えてくれた。

6階の一人部屋、窓側が、屋根の関係か、ナナメになっていて、いかにもヨーロッパらしく、一人が居るには最高のフンイキだ。フロム、便所もある。松田氏ともども少しいっぶくして、京子へ行く。松ちゃん、ミソやその他、マドリッドでは入手しにくいものを仕入れ、オレは眠り用のショウチュウを買う。同店で、焼肉定食と、久し振りに日本酒で乾杯した。ホテル近くの、BARでもビールで乾杯。タクシーで松田氏を送って、オーストリッチ駅まで行く。40日近い、長い道づれ旅も、これでお別れである。彼は10時50分発のイルン行き寝台車。明日の朝、7時にイルンに着き、のりついで夕方6時にはマドリッドに帰るという。10時半に元気で、気をつけてとサヨナラする。汽車は出て行く……のふん囲気は好かん。スタスタと歩く。夜の、ノートルダムにさしかかるころ、彼の乗った電車は発車した。はずだ。帰り道、一寸したことで道を迷い、汗かいた。こ

れから、5日間の一人旅、さいさきわるい。ホテル入りして、風呂に入り、26フランの焼酎をのむ。よくきく。眠り薬である。(午前2時)

8月7日(木) 晴 くもり

朝8時に朝食で起こされる。眠いので食わずに30分ほどねる。半分だけ食って、半分は、スケッチの途中でと思って荷物に入れる。あまり早く出ても仕方がないので、コマゴマしたメモや、地図しらべなど時間をかける。となりの部屋でそうじが始まったので、出発することにした。12時15分前。モンマルトルまで歩く。セーヌ川を越えて、大通りでアキコにと思って、パリの20枚1組の絵はがき買う。それから、一本横道に入って、モンマルトルに向って歩いて行くと、DENIS通りに、やたらとSEXSHOPというのがあって、街娼がいっぱい立っていた。下半身もあらわだが、胸は、ほとんど丸見えのもいた。こちらの、この商売の人は、昼に稼ぐそうである。面白い看板があった。「日本人何大サービスの店」と。字がへたなので日本人何?とは何?と思ったが、よく考えると「日本人向」であった。サクレールにたどりつく。松ちゃんと、この前きたのは7月の1日だった。その時は、予定なしで来たので、スケッチブックもカメラもなく、残念だった。これで、無念が晴れた。あいかわらず、観光客の多いところで、ジャルパックと日本字で書いたバスで、

日本人ぞろぞろ。缶ビール一本のむ。5フラン。モンマルトルの下町、ウラ道をおあるいて、スケッチとカメラに何枚か収めた。じっくり、一日かければ、もっと面白い場所も発見できたであろうが、ここはどうも何を描いても佐伯祐三になりそうである。帰り道は、またDENIS通りを歩いてきた。このような昼間でも、お客さんあるのだな。マルセイユは、暗くしたのみやに、それらしい女がたむろしていたが。

セーヌの河畔でいっぷく。今日もよく歩いた。道で、パンにハムをはさんだのを一つ買い（スペインではポカジージョ）リュクサンブール公園のベンチで、レモネードをのみながら、夕食の代用。しけた話である。日本に帰るまで、てっていつにケチで行かんとあぶない。昨日、松田氏帰り際に気を使ってくれて、金を貸してくれたが、これは使わないつもり。最悪事態の時の用心としておきたい。くたびれたので、7時にホテルに帰る。今日のスケッチ一枚彩色して、いま、これを書いている。松田氏、もうマドリッドについて、ベッドでグーグー眠っているころだろう。ともかく、よく寝る男であるから。一日中無言というのは、淋しいものである。ホテルの人と、カタコト英語を少し発するのみ。（午後8時50分）昨夜は、焼酎のんだおかげで、よく眠れた。酒がなかったら、初めて一人旅となって、気がちって眠れなかったかも知れん。それにしても飛行機待ちの4日間は長い。

サクレクルの前のみやげ物屋で、15フランのスカーフ2枚買う。これで、みやげものは、あとフランスのタバコだけ。飛行機に乗る

まで、果して金足りるのか、不安である。今日現金使ったのは、7, 8, エハガキ、パン5フラン、スカーフ 30 フランで、60 フランくらい。明日は、少しマシなもの食わんと、ブッタおれる。向いのホテルの、丁度真正面は、浴室のようである。一人でボケーと外を見ていると、スリガラスとはいえ、中の人間が見える。女はスッポンポンで、カガミの前で、いろんな、しぐさをするものだと感心して見ていた。結構ヒマつぶしになった。

8月8日（金） くもり 晴

8時きっかりに、ボーイさんに朝食で起こされる。今朝はしっかり食った。ハラがへってはである。さすがに昨夜は疲れたか、12時ごろに眠ってしまった。焼酎のおかげである。多分いまは、酒なしでは眠れないだろう。明日の夕方、いよいよ空港入りだが、間際に来てウロたえないように、手帖にコマゴマとメモなどした。早い目に空港に到着することを心がけるべきである。さて、いま、350フランあるが、ホテルの支払いが220フラン。あと、ターミナルまでのタクシー代と、ターミナルから空港までのバス料金が不明である。タバコ、ワンカートン買ってみやげにしたいし、足りるかどうかどうか不安である。もう少し、フランに替えておくべきか。足らんとっては事であるし。日本円でというわけにもいかん。そろそろ出かけるか。(8月8日 正午)

ばくぜんとはしていたが、今日は、エッフェル塔や、凱旋門など

見に行ってやろうと思ったが、(実に通俗的ではあるが) ともかく、フランの残金が心配なので、フラフラ歩いて、オーストリッチ駅のチェンジに行く。日本円1万円が、170フラン。スペインに1ヶ月、ペセタになれたころ、単価の上下の差がいにカンが狂ってしまう。それにしてもパリはモノが高い。またたく間にゼニが消えていく。ホテル住いだと、1日1万円は必要となる。まあしかし、日本の国内でも、同じようなことでありましょう。エッフェル塔、モンパルナスは遠いので、さてどうするべきかを、考えようと思って、オーストリッチ駅近くの植物園に入り、売店で、ホットドッグとビールを買って、ベンチでいっぷく。一枚スケッチする。少し移動して、動物園の入口近くで、またビール買って、ベンチでへたりこむ。今日は、あまりバタバタするつもりはない。セーヌの右岸を歩く。サン・ルイ島に入る。この国は、古いものを大切にす。この小さな町中にある、1600何年かのホテルを、国か市で保存につとめている。ここでもスケッチした。しかし何か身が入らん。写真も、スケッチも、もうよろしい。カメラのフィルムも、すべてなくなった。都合、フィルム18本写した。ノートルダム寺院の横の土産物屋で、スカーフ3枚と、パリの地図を買う。54フラン。まてまてと思う。この国は、調子にのって金使うな。ブラブラ歩いて、どうするべえと思い、またリュクサンブール公園に来たが、今夜の眠り薬がない。ウイスキーは高い。京子の店は近いので寄る。また三楽焼酎を買い、アテにチクワをもらう。36フラン。もうムダ金は使えない。エアポートにつくまでは必要以外出費不要。松ちゃんの、置いていってくれたク

ラッカーがあるし、今夜の夕食代りだ。残念ながら、魚の缶詰もあるが、缶切りがない。外に食いに行けば最低30フランはかかる。大いに自重せよ。クラッカーとチクワで夕食か。7時にホテルにもどり、チューをやりながら、今日スケッチした4枚を彩色した。(午後9時) ショーチューはよく効く。9時すぎから、コテンとうたたねした。窓を開け放していたので、寒気に目がさめた。いま、午前2時である。この部屋の電気をつけたのは、今が初めて。今日は、木陰でかなり休けいしながら歩いたが、しかしながら、今回の旅はよく歩いた。松田氏の方向感覚の悪さも大である。松田氏のそれは、最初パリについたときから感じたことであるが、それは、いずこでも同じであった。悪口いうつもりはないが、目的地へまっすぐ行かないことは、見事である。松田氏の、イヤな面を見てしまった気がする。多分、他人をつれての外国、いろいろ気がはったのかも知れんし、こちらも初めての外国、気持の起伏がはげしかったこともあろう。しかし、オレは、かなりガマンした。分りきったことで、松田氏の誤りも黙ってついて行くことにつとめたつもりである。オレを、カバン持ちか、便利屋扱いをされたこともあったが、内心モーレツに腹を立てたが、彼のおかげで外国を旅出来るのだと、自分に言い聞かせたつもりである。松田氏と別れて、一人で行動、一人で帰ってやろうと何度か考えたことがある。ひょっとしたら、彼も、イヤ気がさしたのかも知れん。パリへつくなり、さっさとマドリッドへ帰ってしまった……。パリの一人住い、三泊した。気楽といえそうであるが、言葉が出来ないことが、最大の不安である。しかし、今は、

何とかなるやろと、ハラをくくっている。はじめ、こちらに来たとき、3日間松田氏が寝込んでくれたおかげで、止むなくパリの町を、2日間歩いて、病人の買物などした経験が、のちに外国に居ても、そう不安をなくした理由かも知れん。いよいよ、明日夕方、パリともお別れである。無事でコトが運ぶように願う。明日の夜は飛行機の中である。いや正確には、今夜というべきである。(午前3時)

8月9日(土) くもり 晴

昨夜、夜中に目がさめて、また軽くチューをやってねむった。朝、ドアをノックしてくれたのだろうが、グーグー眠っていて、女の人が合カギでヌーッと朝食を持って入って来たのでびっくりした。ともかく、チューをのみすぎたか(というほどでもないが)疲れのせいか、頭がスッキリせんまま、なんとか朝食を全部平げた。荷物の整理も完了した。髪をシャワーで洗って、気分スッキリした。さて、準備完了、いま10時すぎ、ヨユウをもって、おくことだ。昼ごろ出発して、バスターミナルで一旦荷物を預けて、オペラ通りのラーメン亭で、みそラーメンでも食って、早い目に空港へ行くべきである。間ぎわになって、アワてるとロクなことがない。今朝も、向いのホテルのバスが、まる見えに近く、メシ食いながら楽しませてもらった。女は鏡の前で時間かけて面白いものである。スッポンポンで、デルタ地帯もマル見え、目の保養になった。さて、この次の日記ははず

こで記すや。

(GRAND HOTEL DES ETRANGERS PARIS)

8月9日 午前10時半

11時30分ホテルを出る。支配人さん、えらくごきげんである。ネクスト イヤー カムバックなんて、へたな英語を言うと、オーケー サンキューと、大きな手でアク手してくれた。コール タクシー プリーズとたのむと、5ミニッツ待てと言ってくれた。タクシーでアンバリッド・エアーフランス、バスターミナルへ行く。このタクシーの運ちゃん、歌ばかり歌っている。コインロッカーに荷を入れて、ラーメン亭へ、メシ食いに行く予定だったが、コワレたロッカーで、用意したコインがなくなった。いろいろ考えたが、えい空港まで行ってしまえと思い、バスにのった。18フランで、1時にオリリー空港南についた。さて、早くつきすぎて困って、コインロッカーに荷を入れようとしたが、小銭がなく、BARでビールをのんで、つり銭でロッカーに入れた。フランが沢山残ったので、空港の売店で、モノを買う。ライター 7フラン2個。 ボールペン 27フラン。パリの本 22フラン。お菓子 20, 55フラン。 3ヶ所でビールのんだ。まだ小銭はあったが、何か買えるほどでもない。ソファでウトウトして時間を待つ。5時半に、チェックインの列にならぶ。ノースモーキングかスモーキングかと聞いてくれたので、スモーキングOKをたのむといった。パリのホテルのルーム No.44. フライト No.SQ46 (SQ のゲート No.42 座席番号がK40。 4ばかり) こ

れは気をつけないとあぶないぞ。妙に、エンジをかつぎだした。その予感がのちに現れて来だした。19時40分発の飛行機が、1時間おくれ出発。となりの座席には、日本人夫婦。日本の団体さんのいっぱい。午前3時30分ドバイ着。4時30分発。(夜が明けて現地は何時?) その間、待合室へ行ったが、白い服を着た人がいっぱい、一寸気持悪い。同じく8時35分コロソボ着。この空港では降してくれない。行く時もそうだった。*空から、ドバイを見下ろしたが、延々と続く砂バク、これはドエライ国だ。

コロソボ発もおくれて10時15分発。となりの人といろいろしゃべる。松下電器の国際セールスのえらいさん。英語が達者である。絵が好きで、いろいろ見て歩いているそうである。

8月10日(日)

1時45分、シンガポールにつく。(以上の時間は、すべてパリ時間である)シンガポール時間に修正した。20時17分。9日の深夜はどこへ行った。どうも、ややこしい。今日はいったい何日だ。荷物の検査をうけたりして、なんとか外に出たが、金のチェンジを忘れてえらいこと、また、たのんで税関の中に入れてもらう。沢山居た日本人は、だんだんへって行く、心細いものである。長い列を並んでタクシーにのるが、タクシーのオッサン女を世話しようと、相当しつこくやられた。ますます不安になる。ノーノーと断りつづけた。

なんとかホテルについたが、この受付も困った。ROOM No.の予約がないと。シンガポール航空も、ええかげんに紹介しやがる。なんとかチェックインして、部屋に入れてもらったが、ツインベッドのバス付き、これはえらいことになった。2万円チェンジしたが足りないぞ。タクシー代とボーイに\$5ドルなくなった。ちなみに、2万円がシンガポールドルで170ドル。ここは空港税もあり(10ドル?)それを引くと158ドルしかない。やはり、44、42、40、46と続いたゲンの悪い番号のせいかもしれん。あと一日、なんとか慎重に、冷静に行動したい。(のちに、やっとフロントに日本人が居て助かった)時差というのは、まったくけったいなもの。9日の夜、8時40分にパリを出て、シンガポールに着いたのは午後8時ごろ。24時間も飛行機が、とんだわけでもないのに、どう考えても、9日の深夜が行方不明。時差ボケというやつか、どうしても眠れず、松ちゃんのくれたブランデーのむ。こういう豪華な部屋は、オレには似合わない。

8月11日(月) 晴

3時ごろから、酒が利いたか、ウトウトして、7時すぎ目をあけて、びっくり。6時半に、このホテルをとび出す予定であった。顔を洗ってフロントへ行く。会計をたのんだが、伝票を見て、OK OKといい、わかっているから行ってくれという。むろん英語なので、正確にわ

からないが、そういう身振りであった。どうも、シンガポールエアライン会社へ請求するらしいのである。おかしいなあと思いながら、こっちも時間がなく、あわてているので、それでは、コール タクシー プリーズとたのむと、OK タクシーと、タクシー代6ドルくれた。狐にだまされたような話だが、悪いことではないが、気持ちわるい。こんなけっこうな話があるのかな。玄関に、ボーイ達に、タクシー呼んでもらったり荷物を持ってくれたりしたので、小銭ないので、ドル2枚やった。タクシーで空港に向う途中、スペインで集めたポスター（ピカソ、ピカソ美術館で買ったのも含む）を部屋に忘れて来たのを思い出し、引き返そうと思ったが、すでに時間がない。不なれな空港のことチェックインに時間がかかるのであろうし。部屋を出るとき、一旦外に出て、再び部屋に入り、忘れ物ないかと思わしたのだが、何故目に入らなかったか。あわてていたのが原因か。時差で眠れなかったことも、いろいろ重なる。スペインから、大切に持ちつづけて来て、最後のところで大ミス、無念残念である。8時キックリにチェックイン。無事通過する。さて、思わぬことでドルがあまっているので免税品をと思って、オールドパーとタバコを買う。まだ何かと思ったが、搭乗が始まったので、もうあきらめた。バスの中で、きのうとなりになすわっていた日本人夫婦、上出さんに会う。川西市の人で絵が好きだと言っていた。

スモーキングOKのシートをたのんだが、なし。今日の飛行機も、となりには日本人。ニュージーランドからとかで、オーバーを持っていた。印刷インクのセールス会社のえらいさんで、年は若い、

外国をとび回っているだけに、外国旅行はなれている。いろいろと話す。この人も絵が好きで、1回旅をすると、必ずどこかで1枚絵を買おうと言っていた。吹田に支社があるので、月に1回は大阪に行くと言っていたし、展覧会の案内をくれと言っていた。永瀬さんという。何度か、居眠りしながら、定刻より、少し早い感じで、大阪についた。成田で外に出してくれなかった。背のびをしたかったが。税関で税金1,000円を払って無事通過するが、チェンジで、シンガポールドルは駄目ときた。121ドルもある。永瀬さんも、ここまでいっしょに来てくれたので、それでは、近いうちに商用でシンガポールに行くので、と言って自分の日本円で替えてくれた。知り合っておいてよかった。

また近いうちに会いましょうと握手して別れた。彼は新幹線で羽島まで行く。オレも、バスはしんどいので、はりこんでタクシーにのる。家に電ワするのを忘れたので、ナンバから電ワして、トーフをたのんだ。8時10分発の急行で帰る。兄キところで、冷奴と、ビールごちそうになる。11時ごろ家にかえる。兄キの息子たち荷物をもってくれた。

デコ、はじめは、うたがい深そうに見ていたが、やがて大変な喜びようで迎えてくれた。それにしても、シンガポールの、ホテル・キングスどうなっているのやら。あとでガッポリ請求書来るのでは。

日 程 表

- 6月27日 午前11時 大阪空港発、東京、シンガポール、コロンボ、ドバイを經由
- 6月28日 午前9時5分（現地時間）オルリー着 Grand Hotel des Etrangers 泊
- 6月29日 パリ・オペラ通り周辺、午後サン・ミッシェル周辺を見物
- 6月30日 パリ・サン・ミッシェル、セーヌ両岸をスケッチ
- 7月01日 パリ・モンマルトルを見物
- 7月02日 パリ・オーステルリッツ駅発、国境の町スペイン・イルン着
- 7月03日 スペイン・イルン発、マドリッド・チャマルティン駅着 Hostal Prader 泊
- 7月04日 スペイン・マドリッド、プラド美術館見学
- 7月05日 スペイン・マドリッド、トレド見物、グレコの家見学
- 7月06日 スペイン・マドリッド、ラストロ見学
- 7月07日 王立フェルナンド美術アカデミー、サン・アントニオ、フロリダ寺院、ゴヤの壁画見学、カサ・デ・カンポに登る
- 7月08日 アビラの取材
- 7月09日 スペイン現代美術館見学。大島渚の「愛のコリーダ」ノーカット版見る。
- 7月10日 王宮見学。再びプラド美術館見学。レイテロ公園スケッチ。
- 7月11日 セゴビア、オントリア、スケッチ旅行（セゴビア、フランコ広場）
- 7月12日 セゴビア、セントロ、サマラマラのスケッチ。
- 7月13日 マドリッド・闘牛見物
- 7月14日 チンチョン取材スケッチ。
- 7月15日 マドリッド見物
- 7月16日 マドリッド見物、スケッチ。
- 7月17日 クエンカ取材スケッチ。クエンカ泊。
- 7月18日 クエンカ抽象美術館見学。クエンカ、スケッチ。アランフェス泊。
- 7月19日 カンポ・デ・クリプタナ取材スケッチ。オカニア、エル・トボソ取材。

- 7月20日 マドリッド (休養)
- 7月21日 サン・アントニオ、フロリダ寺院。スケッチ。
- 7月22日 マドリッド～メディナセリ。池上氏宅泊。
- 7月23日 メディナセリ、ミニョ村、ソマエン村、スケッチ。
- 7月24日 グラナダ泊。
- 7月25日 王室礼拝堂、アルハンブラ宮殿見学。サクロモンテ、アルバイシン取材。
サクロモンテに於て、フラメンコ見る。
- 7月26日 グラナダ～マドリッド。
- 7月27日 マドリッド。ラストロ。
- 7月28日 マドリッド。
- 7月29日 マドリッド。
- 7月30日 サラゴサ見学。 サラゴサ泊。
- 7月31日 サラゴサ、フェンデトドス村。ゴヤの生家など見学。サラゴサ～バルセロナ
(テルミノ) HOSTAL STA MARTA 泊。
- 8月01日 バルセロナ、ミロ美術館見学。バルセロナの街を見学。
- 8月02日 バルセロナ、ピカソ美術館見学。海岸付近を取材。
- 8月03日 バルセロナのガウディ聖家族教会を見学。
- 8月04日 バルセロナ～アビニヨンを経て～マルセイユ。旧港スケッチ。マルセイユ泊。
- 8月05日 マルセイユ～パリ・リヨン駅着。サン・ミッシェルのエトランゼに泊。
- 8月06日 パリ市内見物。ロダン美術館見学。(松田氏スペインへ戻るため夜送って行く)
- 8月07日 モンマルトル、セーヌ周辺スケッチ。リュクサンブール公園。
- 8月08日 セーヌ周辺、他 パリ市内スケッチ。
- 8月09日 P.M.8:40 オルリー空港発。
- 8月10日 P.M.8:17 シンガポール (現地時間) に着く。シンガポール泊。
- 8月11日 A.M.9:00 シンガポール発。
P.M.8:00 大阪空港着。

父と私

香山 聡子

私が生まれてから父が亡くなるまでの四十余年の間に、私が父と一緒に暮らしていたのは子供の頃のわずか四年間だけだった。

父と別居してから、時がたつにつれ父との交流は疎遠になっていき、私が父の訃報を受け取ったのは、父が亡くなった平成二十年の暮れのことだった。その時にはすでに何もかもが終わっていて、私は父の死に目にすら会えなかった。

父は淋しがり屋で、いつも友人と共にいた。友人の前ではとても雄弁だったが、なぜか家族である、母と私には自分のことは何も話そうとしなかった。自分の気持ちなど、素直に話してくれればよいのに、話すことはついぞなかったので、私たちは父をどう受け止めてよいかわからなくなっていった。私は父の思い出話を一つも聞いたことがなく、父がどんな人生を歩んできたかも全く知らないのだ。それがとても寂しい。

父は父なりに家族への思いがあったろうに、内気な父はそれさえほとんど言葉にしなかった。私が思春期に差し掛かったあたりからずっと父親を憎んできたことが、実は間違いであったということに、随分年月を経て漸く気づいて、私は父に詫びたいと願うようになった。それも切り出せないうちに、父の命が尽きてしまった。

私は父を孤独にゆかせてしまったのではないかとずっと悔やんでいた。今年八月、父の命日の後に東光寺に山内氏を訪ねた時、今回の個展の企画が立ちあがり、瞬くうちに開催の運びとなったのを見て、父は孤独などではなく、大勢の友人に囲まれて、好きな絵を思う存分描いて、本当に幸せな日々を送っていたことを、確かめることができた。

皆さん、父と、父の絵を心から愛して下さって、本当にありがとうございます。

編集後記にかえて

2009年の春、毎年きちんと届く年賀状が来ていなかったのが、不審のはじまりだったが、中西康郎さんは2008年の7月30日に黄泉へと旅立っていた。しばらく疎遠になっていた娘の聡子さんにメールしてそのことを知らされたのだったが、かなりたってから駅前で写真屋を営んでいる兄の俊郎氏から通知の挨拶状を送ってくださった。中西康郎さんの追悼会などが、そのうちに開かれるのではないかと思っていたが、だれからもそうした動きがなかったので、それは私の役割ではなかったかと康郎さんに済まなかった思いで、遅まきながら追悼の遺作展を思い立った次第であった。何度か彼が個展を開催した上本町ギャラリーが快諾し協賛してくれたので、案内状に記載したように、この企画のためのカンパをお願いしたところ、大勢の方から寄せられて、この本も出版できることとなった。ご協力いただいた、中西康郎さんの縁のみなさんに深く感謝する次第です。表紙の写真は松田弘の未亡人、松田蓉子さんが提供してくれました。

今回の遺作展の作品在庫を確認のために、聡子さんに案内されてアトリエを訪問した際に、几帳面な彼の性格のまま、書棚も作品も、画材もきちんと生前のまま整頓されており、主の活動をいまでも待っていた。

「フランス・スペイン・シンガポール旅日記」というこの日記帳は、この本の表紙に使っている中西康郎さんの手描きのデザインのカバーがかけられて、彼が半世紀以上も毎日書き綴ってきた何十冊もの日記帳のなかの一冊としてしまわれていた。そのほかの日記帳は、毎日1ページづつ書いていく一年間ごとの博文館などの日記帳だったが、この旅日記はA5判のスプリング閉じのノートで、表紙も変色して黄色くなり、背文字のところはことに焼けていたが、彼の特徴ある筆跡が目について真っ先に取り出してみたのであった。松田弘さんとふたりで、1980年6月27日から8月11日まで行った旅行記であった。私は松田弘さんとも長いおつきあいがあって、中西康郎さんとは50年にもわたる交友だったが、二人のこの旅行のことは記憶に残っていない。斜めに拾い読みしてみても、この日記帳を出版しようとその場で聡子さんと即決した。

二十歳ごろ、南のトリスパーへ詩の仲間と行ったとき、中西康郎さんは烏打帽をかぶってカウンターで一人飲んでいた。詩の仲間がそのとき紹介してくれたことから私との付き合いがはじまった。

その後、意気投合して付き合ってきたが、天王寺の慶沢園で詩と写真展を開いたとき、彼は私の詩をパネルに十数点、詩の雰囲気合ったレタリングで書いてくれたり、のちにその一連の詩を「雨季」という詩集に編んだとき、装丁と挿画を引き受けてくれて、自由美術の仲間の濱田弘康さんにも挿画を依頼してくれたりした。彼の結婚式には披露宴の司会も頼まれたりした。

彼はいつも胸のなかに住んでいる大事な友人であったが、若いころのように、一緒に飲み歩くということもなくなって、たまに安否を尋ねる電話で体調を話し合うというような齢になってきたが、しばらく途切れていた電話の向こうには、受話器をとりあげるひとはいなくなっていた。

山内 宥 巖

中西 康郎

画 歴

- 中美展・アンデパンダン展・自由美術協会展
- 堺市展・北鋭会展・大阪府美術家協会展
- 赫会展・関西美術機構展
- 関西洋画90人展（昭和世代の画家たち）
- 個展、大阪、神戸、宝塚に於いて18回開催
- 日本美術家連盟会員

1934年8月 9日生

2008年7月30日死去 享年75歳

呼びかけ人

安益 耕平 小澤 一正 田麻 新 濱田 弘康 山内 宥巖
上本町ギャラリー
(中西 康郎 遺子 香山 聡子)

フランス・スペイン・シンガポール旅日記 1980

著 者 中西 康郎

発行日 2010年10月22日

発行所 〒633-0053 奈良県桜井市谷381-1 東光寺
電話と電紙 0744-46-2410

発 行 中西 康郎をしのぶ会

編 集 山内 宥巖

写真提供 松田 蓉子

印刷 あゆみ印刷
大阪市北区大淀南3-7-12-202
TEL06-6454-0995 FAX06-6454-3877
